2 ふくしま心のケアセンター 相談等の件数報告

ふくしま心のケアセンター相談等の件数報告

概要

ふくしま心のケアセンター(以下、当センター)は、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所災害時こころの情報支援センター(現:ストレス・災害時こころの情報支援センター)が運用する災害精神保健医療情報支援システム(Disaster mental health information support system:DMHISS)を用いて活動報告・データ集積を行っている。以下に、DMHISSにより集計した2017年度の個別相談支援等の実績を報告する。なお、以下に示すデータは全て延べ数である。

1. 個別支援

1) 相談支援

2017 年度は、延べ件数が 4,222 件、基幹センターが 129 件 (3.1%)、県北方部センターが 705 件 (16.7%)、県中・県南方部センターが 833 件 (19.7%)、会津方部センターが 252 件 (6.0%)、相馬方部センターが 1,318 件 (31.2%)、いわき方部センターが 859 件 (20.3%)、ふたば出張所が 126 件 (3.0%) だった (表1)。

基幹センター ^{注1)}	129件
県北方部センター	705件
県中・県南方部センター	833件
会津方部センター	252件
相馬方部センター	1,318件
いわき方部センター	859件
ふたば出張所 ^{注2)}	126件
計	4,222件

表1 相談支援の事業所別件数

- 注1) 基幹センターの件数はふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤルふくここライン
- 注2) ふたば出張所は2017年12月より活動開始

2) 事業所毎の主な個別支援件数(市町村別)

2017 年度は、基幹センターがいわき市(48件)、県北方部センターが浪江町(381件)、県中・県南方部センターが富岡町(277件)、会津方部センターが楢葉町(123件)、相馬方部センターが南相馬市(1,157件)、いわき方部センターが広野町(289件)、ふたば出張所が広野町(74件)からの相談件数が最も多かった(表2)。

	1	2	3
基幹センター ^{注1)}	いわき市(48件)	南相馬市(13件)	浪江町(10件)
県北方部センター	浪江町(381件)	飯舘村(203件)	南相馬市(73件)
県中・県南方部センター	富岡町(277件)	浪江町(154件)	大熊町(115件)
会津方部センター	楢葉町(123件)	大熊町(101件)	浪江町(12件)
相馬方部センター	南相馬市(1,157件)	飯舘村(62件)	浪江町(57件)
いわき方部センター	広野町(289件)	楢葉町(180件)	大熊町(109件)
ふたば出張所	広野町(74件)	楢葉町(38件)	双葉町(6件)

表2 事業所毎の主な個別支援件数(市町村別)

注1) 基幹センターの件数はふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤルふくここライン

3) 相談対象者の震災前居住地

2017 年度は、県北地域が 297 件 (7.0%)、県中地域が 36 件 (0.9%)、県南地域が 4 件 (0.1%)、双葉地域が 2,473 件 (58.6%)、相馬地域が 1,297 件 (30.7%)、いわき市が 65 件 (1.5%)、会津地域が 9 件 (0.2%)、県外が 3 件 (0.1%)、不明が 38 件 (0.9%) だった (図 1)。

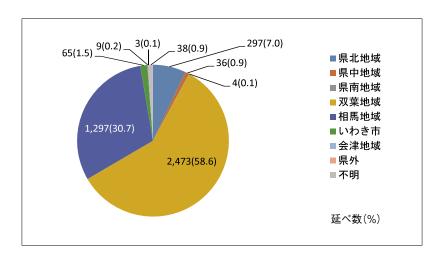
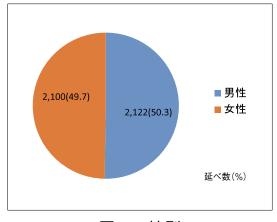


図1 震災前居住地

4) 相談者の性別と年代

2017年度における相談者の性別は、男性が2,122件(50.3%)、女性が2,100 件(49.7%)だった(図2)。



170(4.0) 300(7.1) 308(7.3) ■10代 ■ 20代 824(19.5) ■30代 ■40代 497(11.8) ■50代 ■60代 866(20.5) ■70代以上 ■不明 598(14.2) 延べ数(%)

図2 性別

図3 年代内訳

2017年度における相談者の年代別は、10代が300件(7.1%)、20代が308 件(7.3%)、30 代が 497 件(11.8%)、40 代が 659 件(15.6%)、50 代が 598 件(14.2%)、 60 代が866 件(20.5%)、70 代以上が824 件(19.5%)、不明が170 件(4.0%)だっ た (図3)。

5) 新規相談と継続相談

2017 年度は、新規相談件数が 311 件 (7.4%)、継続相談件数が 3.911 件 (92.6%) だった (図4)。

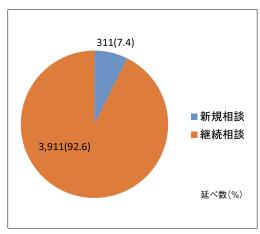
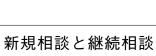


図 4



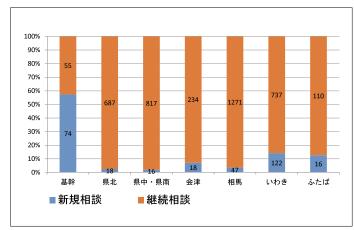


図 5 事業所別新規相談と継続相談

事業所別では、基幹センターの新規相談件数の割合が最も多く半数以上を占 める(別章、ふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤル「ふくここライン」 の相談件数を参照)。いわき方部センターとふたば出張所の新規相談は 10% を 超えているが、他の事業所は殆どが継続相談である (図5)。

6) 相談方法

2017 年度は、訪問が 2,405 件 (57.0%)、来所が 425 件 (10.1%)、電話が 1,281 件 (30.3%)、集団活動内での相談が 27 件 (0.6%)、その他が 84 件 (2.0%) だった (図 6)。

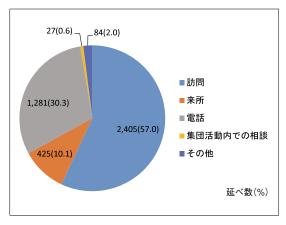


図6 相談方法

図7 事業所別相談方法の内訳

事業所別では、基幹センターは全て電話相談(ふくここライン)である。相 馬方部センターは電話と来所がほぼ同等だが、他の事業所は訪問と電話が大半 を占める(図7)。

7) 相談場所

2017年度は、自宅が1,765件(41.8%)、応急仮設住宅が258件(6.1%)、民間賃貸借上住宅が228件(5.4%)、復興公営住宅が584件(13.8%)、相談拠点が700件(16.6%)、その他が687件(16.3%)だった(図8)。

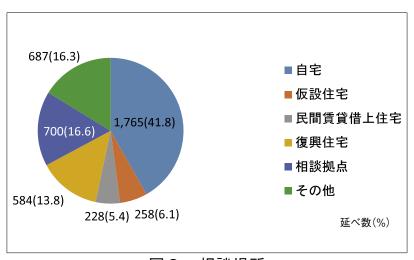


図8 相談場所

事業所別では、基幹センターと県北方部センターはその他が、県中・県南方部センターは自宅と復興公営住宅が、会津方部センターは自宅と応急仮設住宅と相談拠点が、相馬方部センターといわき方部センターとふたば出張所は自宅が最も多い(図9)。

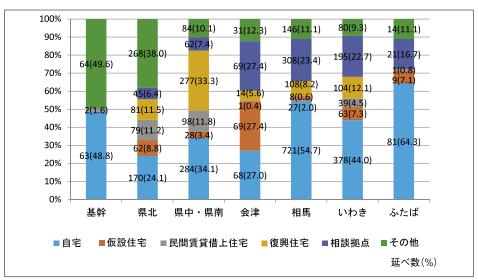
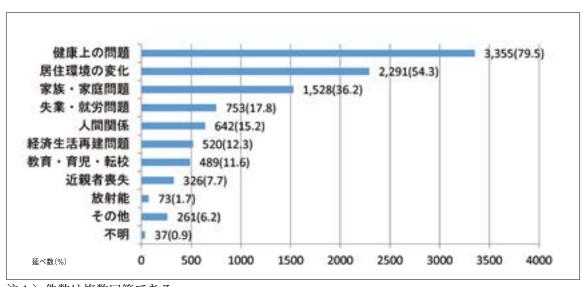


図9 事業所別相談場所の内訳

8) 相談背景

2017 年度は、健康上の問題が 3,355 件 (79.5%)、居住環境の変化が 2,291 件 (54.3%)、家族・家庭問題が 1,528 件 (36.2%)、失業・就労問題が 753 件 (17.8%)、人間関係が 642 件 (15.2%)、経済生活再建問題が 520 件 (12.3%)、教育・育児・転校が 489 件 (11.6%)、近親者喪失が 326 件 (7.7%)、放射能が 73 件 (1.7%)、その他が 261 件 (6.2%)、不明が 37 件 (0.9%) だった (図 10)。



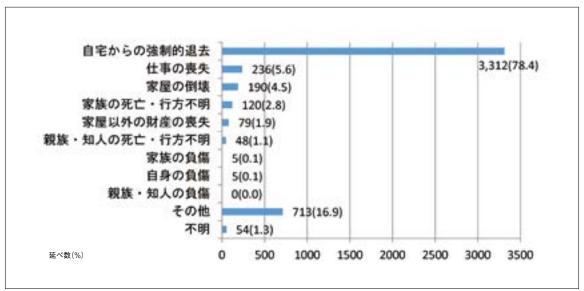
注1)件数は複数回答である

注2) パーセンテージの母数は延べ相談件数の 4,222 件である

図 10 相談背景

9)被災状況

2017 年度は、自宅からの強制的退去が 3,312 件 (78.4%)、仕事の喪失が 236件 (5.6%)、家屋の倒壊が 190件 (4.5%)、家族の死亡・行方不明が 120件 (2.8%)、家屋以外の財産の喪失が 79件 (1.9%)、親族・知人の死亡・行方不明が 48件 (1.1%)、家族の負傷が 5件 (0.1%)、自身の負傷が 5件 (0.1%)、親族・知人の負傷は 0件 (0.0%)、その他が 713件 (16.9%)、不明が 54件 (1.3%) だった (図 11)。



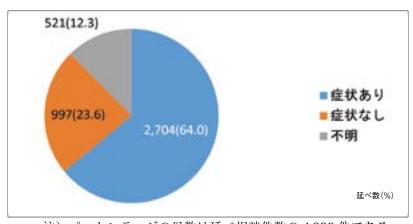
注1)件数は複数回答である

注2) パーセンテージの母数は延べ相談件数の 4,222 件である

図 11 被災状況

10) 症状の有無とその症状

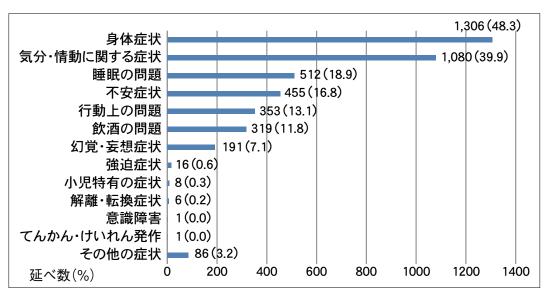
2017年度は、症状ありが 2,704件 (64.0%)、症状なしが 997件 (23.6%)、不明が 521件 (12.3%) であった (図 12)。



注)パーセンテージの母数は延べ相談件数の4,222件である

図 12 症状の有無

症状の内訳は、身体症状が 1,306 件 (48.3%)、気分・情動に関する症状が 1,080 件 (39.9%)、睡眠の問題が 512 件 (18.9%)、不安症状が 455 件 (16.8%)、行動上の問題が 353 件 (13.1%)、飲酒の問題が 319 件 (11.8%)、幻覚・妄想症状が 191 件 (7.1%)、強迫症状が 16 件 (0.6%)、小児特有の症状が 8 件 (0.3%)、解離・転換症状が 6 件 (0.2%)、意識障害が 1 件 (0.0%)、てんかん・けいれん発作が 1 件 (0.0%)、その他の症状が 86 件 (3.2%) だった (図 13)。



- 注1)件数は複数回答である
- 注2) パーセンテージの母数は症状ありの 2,704 件数である

図 13 症状内訳

【参考】

身体症状、気分・情動に関する症状、睡眠の問題、不安症状、行動上の問題、 飲酒の問題について内訳をグラフ化した。各症状の「その他」は記載していない。

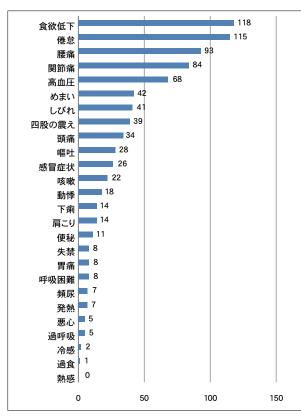


図 14 身体症状の内訳 (複数選択 n=818)

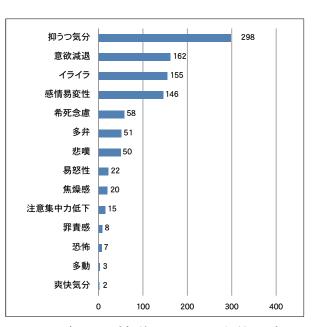


図 15 気分・情動に関する症状の内訳 (複数選択 n=997)

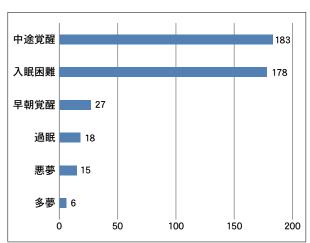


図 16 睡眠の問題の内訳 (複数選択 n=427)

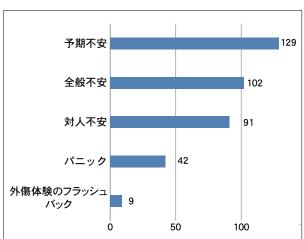
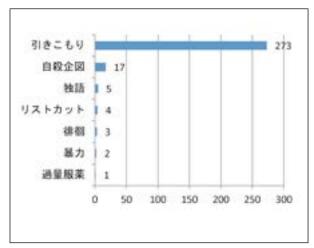


図 17 不安症状の内訳 (複数選択 n=373)



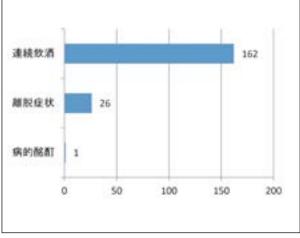


図 18 行動上の問題の内訳 (複数選択 n=305)

図 19 飲酒の問題の内訳 (複数選択 n=189)

2. 住民支援

2017年度は、集団活動が286件(参加者3,336名)、健康調査が75件(うち不在34件)、ケース会議(対象者出席)が40件だった(表3)。

双0 正,	
支援内容	件数
集団活動	286 (3,336名)
健康調査	75 (不在34)
ケース会議	40

表3 住民支援

3. 支援者支援

2017 年度は、延べ件数が 648 件である。支援対象別は、学校・幼稚園・保育園の児童生徒への対応が 0 件、一般事業所・企業への対応が 27 件、地方公共団体・警察・学校・医療機関・福祉施設・国の出先機関への対応が 606 件、その他が 15 件だった。支援内容別は、支援に関する指導・相談が 25 件 (参加者 191 名)、ケース会議 (対象者欠席) が 279 件、健診支援が 41 件、その他が 303 件だった(表4)。

表 4 支援者支援

		件	数
去	学校・幼稚園・保育園の児童生徒への対応件数		0
援	一般事業所・企業への対応件数		27
支援対象別	地方公共団体・警察・学校・医療機関・福祉施設・国 の出先機関への対応件数		606
为リ	その他		15
支	支援に関する指導・相談		25
支援内容別	ケース会議		279
容	健診支援		41
崩	その他		303

4. 普及・啓発

2017年度は、講演会が6件(参加者677名)、普及啓発教材配布が36件、報道機関対応が16件、ホームページ管理・更新・情報提供が41件、その他が21件だった(表5)。

表 5 普及啓発

	件	数
講演会		6
普及啓発教材配布		36
報道機関対応		16
ホームページ管理・更新・情報提供		41
その他		21

5. 人材育成・研修

2017年度は、専門家向け講演・研修会が63件(参加者1,692名)、一般向け講演会・研修会が18件(参加者404名)、事例検討会が3件(参加者29名)、その他18件(294名)だった(表6)。

表6 人材育成・研修

	件数	人数
専門家向け講演会・研修会	63	1,692
一般向け講演会・研修会	18	404
事例検討会	3	29
その他	18	294

6. まとめ

- ・相談支援件数は、延べ件数で4,222件であった。相談支援件数の半数以上が 浜通り地域の方部センターおよび出張所での対応件数であった。
- ・相談者の性別は、ほぼ1:1であった。
- ・相談者の年代は、60代が最多で、次いで70代以上、40代と続く。
- ・新規相談と継続相談の割合は、継続相談が9割以上を占めている。
- ・相談方法は、訪問が約6割を占めており、次いで電話、来所となっている。
- ・相談場所は、自宅での相談が4割を超えており自宅再建の動きなどが影響していると思われる。
- ・相談背景は、健康上の問題が最も多く、約8割を占めている。次いで居住環境の変化、家族・家庭問題と続いている。
- ・被災状況は、自宅からの強制的退去が最も多く、原発事故に伴う被災者から の相談が多いということを表していると思われる。
- ・症状は身体症状、気分・情動に関する症状で半数以上を占めている。

3 ふくしま心のケアセンター 被災者相談ダイヤル 「ふくここライン」の 件数報告

ふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤル 「ふくここライン」について

概要

被災者相談ダイヤル「ふくここライン」(以下、「ふくここライン」)は、ふくしま心のケアセンター(以下、当センター)基幹センター内に設置された専用回線である。この「ふくここライン」は 2012 年 11 月 19 日に電話相談を開始し、土日祝日、年末年始を除く月~金曜日の $9:00 \sim 12:00$ 、 $13:00 \sim 17:00$ に、基幹センターの専門員が交代で電話相談を受けている。

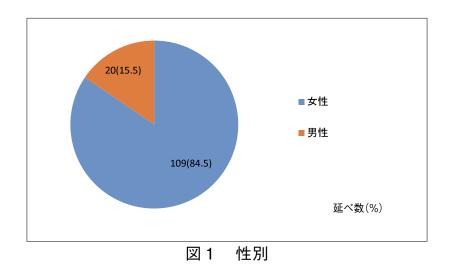
ここでは 2017 年度に「ふくここライン」で受けた電話相談の実績について報告する。なお、以下のデータは「ふくここライン」にかかってきた電話の受信件数を単純に積算したものである。

1. 相談件数

延べ件数は、129 件であり、新規相談件数が73 件(56.6%)、再相談件数は56 件(43.4%)だった。

2. 相談利用者の性別

女性 109 件 (84.5%)、男性 20 件 (15.5%) だった。(図 1)。



3. 相談利用者の年齢内訳

電話相談の場合は、その匿名性から生年月日や年齢を特定するのが難しく「不明」が多い(図2)。

20 代が 1 件 (0.8%)、30 代が 4 件 (3.1%)、40 代が 24 件 (18.6%)、50 代が 12 件 (9.3%)、60 代が 7 件 (5.4%)、70 代以上が 11 件 (8.5%)、不明が 70 件 (54.3%)だった。なお、10 代以下は 0 件だった。

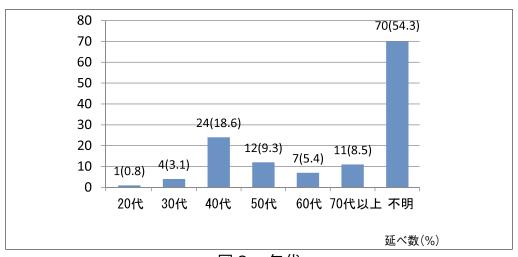
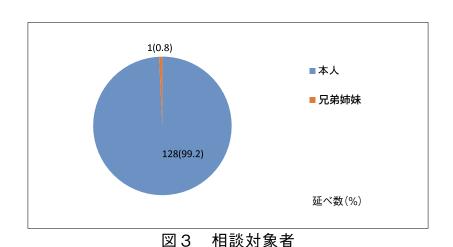


図2 年代

4. 相談対象者の内訳

本人が128件(99.2%)、兄弟姉妹が1件(0.8%)だった(図3)。



5. 相談経路

市町村と県保健福祉事務所が各1件 (0.8%)、当センターホームページが4件 (3.1%)、県内のテレビ・ラジオのスポット放送や県民健康調査の調査票にふくここラインのチラシを同封し対象者に郵送するなどの広告・広報が69件 (53.5%)、その他が17件 (13.2%)、不明が37件 (28.6%) だった (20.4%)。

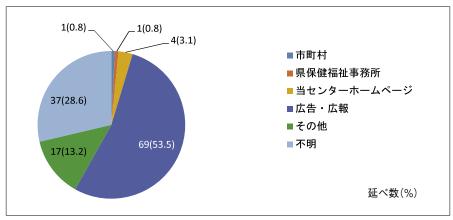


図4 相談経路

6. 利用者の居住地

利用者の震災前の居住地は、県北地域が5件(3.9%)、県中地域が2件(1.6%)、 県南地域が1件(0.8%)、相双地域が57件(44.2%)、いわき市が50件(38.7%)、 県外が1件(0.8%)、不明が13件(10.0%)だった。

震災後の居住地は、県北地域が15件(11.6%)、県中地域が12件(9.3%)、県南地域が1件(0.8%)、相双地域が12件(9.3%)、いわき市が50件(38.8%)、会津地域が2件(1.6%)、県外が23件(17.8%)、不明が14件(10.8%)だった(図5)。

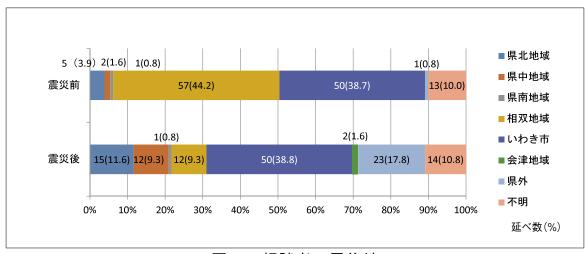


図5 相談者の居住地

7. 相談内容

体の不調に関することが 14 件 (10.9%)、震災・原発被害に関する喪失・ストレスが 11 件 (8.5%)、避難生活に関することが 26 件 (20.1%)、将来不安・生活不安が 5 件 (3.9%)、既往症・元来の病気が 10 件 (7.8%)、その他が 63 件 (48.8%)であり家族関係や近隣住民、職場などの人間関係に関するものが多かった (図6)。

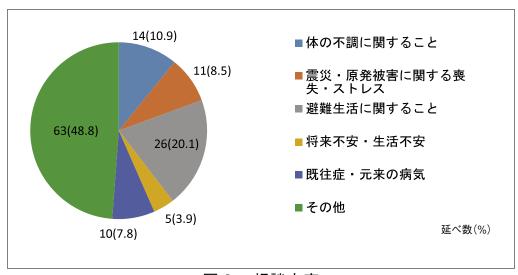


図6 相談内容

8. 相談時間

30 分以下が53 件(41.1%)、31 分から60 分が47 件(36.4%)、61 分以上が29件(22.5%)だった(図7)。

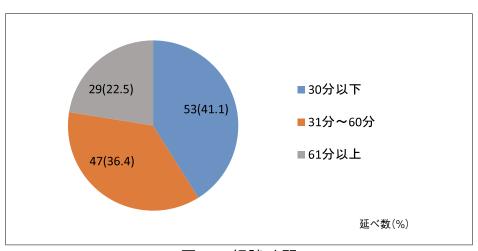


図7 相談時間

9. 相談対応

助言が 34 件 (26.3%)、他機関相談勧奨が 21 件 (16.3%)、受診勧奨が 4 件 (3.1%)、主治医への相談勧奨が 2 件 (1.6%)、その他が 68 件 (52.7%) で傾聴等を行った (図 8)。

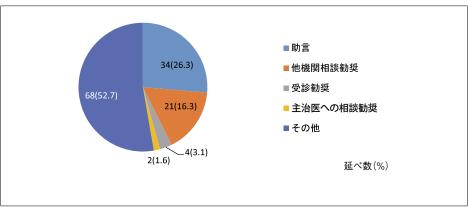


図8 相談対応

4 ふくしま心のケアセンター 地域アルコール対応力 強化事業 (アルコール・プロジェクト)

当センターにおけるアルコール対策について

この数年、多くの避難市町村が帰還を開始したが、帰還が順調に進んでいるとは言い難く今なお多くの人々が避難生活を余儀なくされている。そのような中で県からの委託事業である「地域アルコール対応力強化事業」は5年目に入った。この間、自殺予防という観点も踏まえ、問題飲酒行動の一次予防に力点を置き、節酒アプローチを県内、特に被災地に根付かせるための様々な試みを肥前精神医療センターの協力を得つつ積極的に展開してきた。その甲斐もあって、また我が国のアルコール対策の趨勢からも、節酒アプローチは少しずつ県内に根付き始めたものと考える。

2017年度は専門職研修をいわき市と郡山市で行い、また、いわき大交流フェスタでもブースを設け、アピールに努めた。最近ではアルコール使用障害の家族を持つ方々への支援として家族支援(CRAFT)も積極的に展開している。以下に2018年度の活動の記録を紹介するとともに、今後とも福島県立医大や県、市町村など関係諸機関のご協力とご支援を賜れば幸甚である。

ふくしま心のケアセンター 地域アルコール対応力強化事業 (アルコール・プロジェクト) 平成 29 年度 報告書

一般社団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター

目 次

1.	アノ	ルコール・プロジェクトの概要	76
	1)	地域アルコール対応力強化事業の目的	
	2)	アルコール・プロジェクトのメンバー	
2.	専門	門職研修会の開催	77
	1)	第一回関係者向け研修会	
	2)	第二回関係者向け研修会	
	3)	TV 会議システムを用いた研修会	
3.	住月	民に向けた普及啓発等の活動	82
	1)	双葉町健診結果返却説明会時の AUDIT についての講話と記入支	援
	2)	いわき大交流フェスタにおけるブース出展	
	3)	福島県県中保健福祉事務所アルコール関連問題市民公開講座への	協力
	4)	アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」駅前キャンペ	ーン
		への協力	
	5)	啓発リーフレットの作成	
	6)	福島県相双保健福祉事務所アルコール家族相談会における講師	
	7)	その他の協力事業	
4.	課題	題と展望	90

1. アルコール・プロジェクトの概要

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された地 域アルコール対応力強化事業を実施するために、平成 26 年 4 月に発足した。活動の概要は 以下の通りである。

- 事門職のスキルアップを図るための研修会の開催
- ② 市民に対する啓発を行なうための市民公開講座の開催
- ③ 被災地において支援活動を行なうためのモデル事業の展開
- 1) 地域アルコール対応力強化事業の目的

東日本大震災及び原子力事故による環境の変化や見通しが立たない避難生活等は、多くの県民に多種多様なストレス症状を引き起こしており、うつ傾向の割合の増加が見られている。また、仮設住宅等に訪問している支援者からは、飲酒が絡む相談や支援の困難さが報告されている。ふくしま心のケアセンターの飲酒が絡む相談件数の経年変化を見ても、平成25年度は284件、平成26年度は404件、平成27年度は525件、平成28年度は787件と、右肩上がりに増加している。

このような背景から、今まで以上にアルコール関連問題への取り組みを強化する必要が あり、ふくしま心のケアセンター内にプロジェクトチームを設置し活動を続けている。更 に、福島県立医科大学と連携して、地域支援者の人材育成を通して、地域のアルコール関 連問題への対応力強化を図ると共に、被災者への支援及び普及啓発を展開している。

2) アルコール・プロジェクトのメンバー

前田正治(ふくしま心のケアセンター副所長 福島県立医科大学災害こころの医学講座 主任教授)

- ◎鴻巣泰治(ふくしま心のケアセンター基幹センター 企画課長)
- ○岩見祐亮 (ふくしま心のケアセンター基幹センター 主任専門員)

雫石真実 (ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員)

松田聡一郎 (ふくしま心のケアセンター県北方部センター 方部課長)

大越寛大 (ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員)

後藤弓子 (ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 方部課長)

浜名綾 (ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 専門員)

米倉一磨 (ふくしま心のケアセンター相馬方郎センター センター長)

- ※柴田清瑞(福島県保健福祉部障がい福祉課 主任主査)
- ※佐藤しのぶ (福島県精神保健福祉センター 主任保健技師)
- ※上田由桂(福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター 助手)

【総務担当】相山未希子 (ふくしま心のケアセンター基幹センター 総務財務課長)

【研修担当】松島輝明 (ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員)

◎チームリーダー ○サブリーダー ※オブザーバー

2. 専門職研修会の開催

1) 第一回関係者向け研修会

目 的:住民の関心が高い"健康"や"生活習慣病"とアルコールの関連性に視点を置き、 保健指導の一環としての介入方法を学ぶ。アルコール関連問題のスクリーニング をはじめ、節酒支援の知識とスキルを身につけることにより、福島県における支 援者のアルコール関連問題への対応力を強化する。

日 時: 平成29年7月13日(木) 13時30分~16時30分

場 所:いわき市社会福祉センター 大会議室

対 象:被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者

参加者:60名(スタッフ含)

内 容:講演「10分で出来る!保健指導としての節酒支援」 講師 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館 福田 貴博 先生

主 催: (一社) 福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

共 催:福島県

後 援:郡山市、いわき市、公立大学法人 福島県立医科大学





2) 第二回関係者向け研修会

目 的:住民の関心が高い"健康"や"生活習慣病"とアルコールの関連性に視点を置き、 保健指導の一環としての介入方法を学ぶ。アルコール関連問題のスクリーニング をはじめ、節酒支援の知識とスキルを身につけることにより、福島県における支 援者のアルコール関連問題への対応力を強化する。

日 時: 平成29年7月14日(金) 10時30分~14時30分

場 所:郡山市音楽・文化交流館 (ミューカルがくと館) 大ホール

対 象:被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者

参加者:93名(スタッフ含)

内 容:講演「10分で出来る!保健指導としての節酒支援」

講師 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館

福田 貴博 先生

主 催:(一社)福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

共 催:福島県

後 援:郡山市、いわき市、公立大学法人 福島県立医科大学







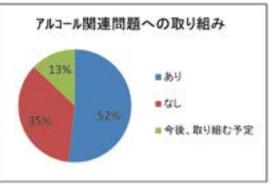


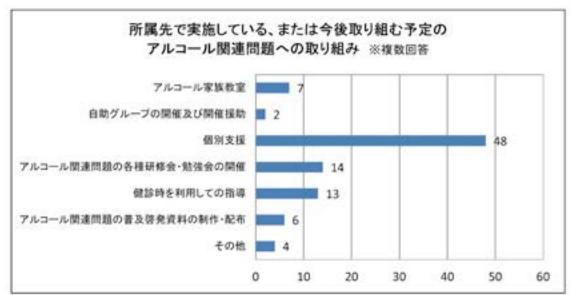
■ 第一回及び第二回関係者向け研修会アンケート結果(回収 110 件/参加者 153 名)











- 参加者のアルコール関連問題に関する困りごと(アンケートより一部抜粋)
- 電話での介入の限界。
- 相談の対象が家族であることが多いため、どのような支援をすればよいのか。
- 独居の対象者への支援・介入。
- アルコール依存症を治療できる専門病院が限られていること。
- アルコール依存症とうつ等で併発している方の支援。
- ・避難住民で一人暮らしの男性がアルコールを朝から摂取する方が多く、ノンアルコール で代用してもらってもすぐに元に戻ってしまい、効果がない。他に対応の方法が不明。
- ・アルコール依存症で入退院を繰り返している人が在宅復帰中に近隣の店へ酒類を買いに 行っており、販売先の店主も「売らないと暴れるので困る」と結局売ってしまっている。

■ 参加者の感想(アンケートより一部抜粋)

- 「ドリンク」¹⁾ の単位や考え方について大変よく分かった。今後の活動に活かせそうである。
- お酒の単位(ドリンク)を知る事ができ良かった。
- ・「節酒」を中心にアプローチしている。アプローチの引き出しを多くもつことの大切さを 感じた。取り組み方について参考になった。ドリンク概念を広げられるとよい。
- 色々な考え方があるのだと知れただけでも勉強になった。
- ・今後の指導に参考にさせて頂きたい。
- 医療の知識はないが、大変わかりやすく、理解できた。これからの活動にいかして行きたい。ロールプレイング後のアドバイスも実践に役立つと思う。
- 分かりやすい説明でワークの時間もあり、保健師としてやれそうかなという印象。
- 目標設定の考え方、分かりやすかった。「ドリンク」という考え方を広めていくことを行っていきたい。
- 初めてドリンクという単位を聞きました。今後の保健指導で活かしたい。
- ・保健師にとっては良い内容だが、相談員には保健指導という内容では難しいのではないか。より身近な話の中で(訪問の場面)でどうアルコール減酒をめざすか聞きたい。
- 健康指導にそった形でのアルコールの保健指導で分かりやすい内容だった。
- 自分の節酒のきっかけになった。
- ・依存症の方と関わって困難さを常に感じていた。今日対象者と言われる方々については 問題意識が低かったので、今後の活動の仕方に活かしていきたい。
- ・今日の様に実践に生かせる研修は参加したいと思う。

3) TV 会議システムを用いた研修会

目的:アルコール関連問題に関して、特に早期介入、動機付け面接、節酒による介入方法等を学ぶことによって、アルコールによる健康障害や依存症の予防に関する効果的な支援方法を学び、アルコール関連問題への地域の対応力強化を図る。TV会議のネットワークは、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターを中心に、同久里浜医療センター、同琉球病院、同花巻病院などが参加している。なお、研修会の進行、およびテーマや講師の選定は、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターが行う。

場 所:ふくしま心のケアセンター いわき方部センター

日時	内容	参加者※スタッフ含
5/10	講義「アルコール依存症に対する簡易介入の適応をめぐる研究」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠(ゆずりは) 岳文 先生	9名
6/14	講義「アルコール依存症予防のための 簡易介入プログラム開発と効果評価に関する研究」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 文献抄読「大地震後にアルコール問題を抱える中国の村民を支援する 簡易介入のフィージビリティスタディ (実用可能性研究)」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	8名
7/12	講義「第 113 回日本精神神経学会学術総会報告 アルコール依存症の治療・・・断酒か節酒かの判断基準を考える」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	5名
9/13	講義「A島における節酒指導」 「A社におけるブリーフ・インターベンション」 講師 国立病院機構 久里浜医療センター 真栄里(まえさと) 仁 先生	7名
10/4	講義「AUDIT調査のこれまで」 「DASHプログラム案のご紹介」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 話題提供「ふくしま心のケアセンターのリーフレットについて」 ふくしま心のケアセンター 鴻巣 (こうのす) 泰治	5名
11/1	講義「飲酒により誘導される皮膚色素沈着の研究」 講師 国立学校法人 佐賀大学医学部 松本 明子 先生 文献抄読「看護師が行う簡易介入について」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	6名
3/7	講義「地域(豊中市)での飲酒実態調査結果の概要(報告)」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 文献抄読「海外でのブリーフ・インターベンションの取り組み」 講師 国立病院機構 肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 話題提供「高齢者向けアルコールリーフレットの作成について」 ふくしま心のケアセンター 鴻巣 素治	9名

- 3. 住民に向けた普及啓発等の活動
- 1) 双葉町健診結果返却説明会時のAUDIT についての講話と記入支援
 - 目 的:アルコール依存症者や多量飲酒者のスクリーニングを主の目的とするのではなく、広く住民を対象にアルコール関連問題の啓発を行うことと飲酒問題への意識づけをすることが目的である。参加者全員に飲酒習慣スクリーニングテスト(AUDIT)を実施するだけでも最小限の介入となり、結果の振り返りとして節酒指導も可能となる。

期 間:平成29年10月~12月 全7回

場 所:健診結果返却説明会の各会場

対 象:健診結果返却説明会の来場者全員

内容:「楽しくお酒を飲み続けるために・・・」のタイトルで、全参加者へ10分間の講話を実施。AUDITの設問を講話中に活用し、適正飲酒の知識の普及啓発を行った。また、飲酒者へ個別にAUDITの記入支援を実施し、保健師の個別相談に繋いだ。

結果:健診結果返却説明会の来場者205名

「飲酒あり・AUDIT 実施者」の方が 48 名 (23%: 来場者中割合)

AUDIT 点数: 2点~21点(平均 6.6点) ドリンク数: 0~11(平均 3.6 ドリンク)

- これまで、アルコール・プロジェクトでは被災者への直接介入の方法を探ってきたが、事業の実施までには至っていなかった。まず、節酒指導の対象となる住民に出会うことや、住民に直接介入する機会が少ないという困難さがあった。双葉町から2年連続でケアセンターに協力依頼があったことで、直接介入できる機会が得られた。
- ・本年は、双葉町と協議し参加者全員に対して 10 分間の AUDIT の講話を実施した。
- 来場者は健康意識が高く、AUDITや節酒指導を受け入れやすい傾向があった。
 健診結果返却説明会を活用することは、健康支援の一環としてより自然な形で実施できることから効果的な介入手段の一つであると考えられる。
- プロジェクト内で、10 分間の講話、解説リーフレット等、健診結果返却説明会時用一連のパッケージ化を図った。講話用のパワーポイント及びシナリオを作成し、講話を実施した。高齢者向けリーフレットを作成し、必要な情報について普及啓発を図れるようにした。
- ・今後は、パッケージを活用し自治体職員が自ら実施できるよう協力を行う。
- ・双葉町はAUDITや節酒支援等に関心が高いため健診結果返却説明会に協力し住 民に対して直接介入が実現した。今後は他の市町村へどのように広げて行くか が課題である。
- ・昨年度はケアセンターオリジナルのリーフレット「適正飲酒のすすめ」を作成 し活用したが、今年度は、国立病院機構肥前精神医療センターの杠岳文先生と

地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館の福田貴博先生の監修のもと、手 にした時に理解が進むようポイントを絞った高齢者版リーフレット「お酒と健 康」「飲酒量の目安」の2種類を作成した。本事業では、このリーフレットを活 用して節酒指導を実施。リーフレットを読んでもらいたい対象者へ届けるため の機会にもなった。

本年度の特徴:

- ・健診結果返却説明会参加者全員に向けての10分間の講話を実施した。
- ・健診結果返却説明会用に内容のパッケージ化を行った。
- ・双葉町が主体となって実施できるよう、事業の移行を見据えた支援を行った。









2) いわき大交流フェスタにおけるブース出展

「自分のお酒に対しての体質をチェックしながら、心の健康について一緒に考えてみま せんか」というテーマで、一般市民に対して睡眠という切り口から、寝酒、飲酒、アルコ ール関連問題の普及啓発を実施した。

日 時: 平成29年10月28日(土) 10:00~15:00 場 所: いわき市21世紀の森公園屋内多目的広場

対 象:一般市民

来場者:総来場者 4,300 名 当ブース参加者約 200 名

内 容: アルコールパッチテスト実施者 119 名 健康相談 3 名

主 催:福島県いわき地方振興局

※職員3名(アルコール・プロジェクトメンバー2名、いわき方部センター職員1名)を 派遣し運営した。





3) 福島県県中保健福祉事務所アルコール関連問題市民公開講座への協力

目 的:近年増加している高齢者のアルコール依存症の予防・回復の一助として、家族や 関係機関担当者等が高齢者のアルコール関連問題に関する正しい知識と適切な 対応方法を獲得することを目的に市民公開講座を行う。

日 時: 平成29年度9月6日(水) 13:30~16:00

場 所:郡山市音楽・文化交流館 ミューカルがくと館大ホール

対 象:アルコール関連問題を抱えている本人、家族、支援関係者、その他関心のある者

参加者:66名

内 容:講演「高齢者のアルコール依存症~予防と回復のための対応~」

講師 福島大学大学院 人間発達文化研究科 特任教授 安部 郁子 先生

主 催:福島県県中保健福祉事務所

共 催:郡山市、(一社)福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

※職員2名を派遣し運営協力を行った。

4) アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」駅前キャンペーンへの 協力

目 的:一般住民に向けた飲酒運転やアルコールによる健康への影響など、アルコール問題に関する知識の普及を行い、関心を高めること。

日 時: 平成29年11月12日(日)9:00~11:00

場 所: JR 郡山駅 郡山駅西口駅前広場、ビボット前、西口中央出入口前、 エスパル出入り口前

内 容: 飲酒運転撲滅のチラシ及びティッシュ配り 1,000 セット

対 象:通行される一般市民

主 催:公益社団法人 全日本断酒連盟 後 接:內閣府、厚生労働省、警察庁

協 力: (一社) 福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター スタッフ: 25 名 (断酒会 20 名、県 3 名、ふくしま心のケアセンター2 名)



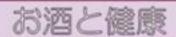


5) 啓発リーフレットの作成

国立病院機構肥前精神医療センターの杠岳文先生と、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館の福田貴博先生の監修のもと、ふくしま心のケアセンターオリジナルの高齢者版リーフレット「お酒と健康」「飲酒量の目安」を作成した。高齢者にも分かりやすく、理解しやすいよう工夫し制作した。

このリーフレットは、いわき大交流フェスタや双葉町健診結果返却説明会の事業におい で広く配布した。

※次ページにリーフレットを掲載。



身体や年齢に合った飲み方で、いつまでも健康にお酒を楽しみましょう。

◆お酒と血圧の関係 📜



お酒には血管を拡張する作用があるため、飲酒をしている最中は血圧が下がり ますが、常智的に数否を紹けていると由圧がと発することがわかっています。毎日数割する人は、数まない人と比べて由圧が高くなります。



車角圧 ###3 動脈硬化 ###3 心臓馬・脳卒中

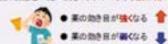


! 農寒の健治、死に至る危険性があります!

●薬を飲んだらお酒は飲まない ○○



差とお酒を一緒に飲むと、以下のような製作用が出る場合があります。



- 美の効き目が強くなる 會
- 他にも様々な作用が 出ることが多く、危険です

*お酒を飲むと睡眠の質は下がります



アルコールには現付きを良くする効果がありますが、その一方で深い戦りを繋げ るため、観りそのものは浅くなります。他にも、こんな影響があります。



HYLに配合る 回数が増える



表面は無能感が得られにくく。 不確になる危険性がある

身体がお酒を分解する力



身体がお海を分解するかのことを代謝といい、物質の生成や分解作用のことを

お酒を飲むと、アルコール成分の分解・処理を行う代謝の働きは肝臓で行われ ます。代謝は体質や年齢、性別によって個人差があります。



お酒の分解時間はどのくらい?

日本酒 (15%)	E'-	-/L- (4)	佐チュー ハイ (1%)	(25%)	245 (12%)
18	350ml	500ml	350ml	18	グラス 1将
49	0	8	25	1	-
5時間	3.5時間	5時間	5時間	排裝	2.5時間

(例) 4

5件型





| 15時間

低ビール (500ml 針)本、日本遺転を飲むと、アルロールを分解するまでこの終

関かかります。 つまり、夜の時に飲んた場合、全てのアルコールが分解されるのは登せの基 のは特となります。

お酒には適切な飲酒量があります。



普段の飲酒量を確認してみましょう。

ボドウンク板は変えやすい値で記載しています

節度ある適度な飲酒量

お酒に強い健康な男性は、1日に 日本酒1合xx焼酎0.5合xxビール500mはで、







お酒に弱い人、女性、65歳以上、病気のある人は、 この半分の量が目安です。











- ◆飲酒すると顔が赤くなる人などは、これよりも少ない量に する必要があります。
- ◆今よりも飲酒量が増えると、寿命に影響が出始めることが 日本の研究で判明しています。



?どうして男女で飲酒量の景安が違うの? 女性は、男性よりも計算が小さい女性ホルモンがアルコールの分解の制度をする

などが影響すると言われています。

生活習慣病の危険を高める量

• 男性は1日に 日本酒2合xx焼酎1合xxビール1000mjまで。







女性は1日に

日本酒1合xx焼酎0.5合xxビール500mjまで。







- 今の量を飲み続けると、生活管情楽になる危険性があります。すでに病気がある人は、改善しないまたは悪化する場合が
- BUET.



多量飲酒(飲み過ぎ)

 1日に日本潤3合xa焼酎1.5合xaビール1500mlを 越えて飲む人を多量飲酒者といいます。







整備のおむと



◆今は自覚症状がまだなくても、数年でアルコール依存症や 肝硬度などの病気にかかる可能性が高まる場合があります。

◆飲酒目記をつけて、1日にどのくらいお酒を飲んでいるのか 無り返ってみましょう。

6) 福島県相双保健福祉事務所アルコール家族相談会における講師

目 的: 相双地区では、以前よりアルコール関連問題に関する家族からの相談が多い状況 であるが、アルコール関連問題に対する相談は、特に家族の相談から始まる場合 が多い。本人が問題を認識し、治療を受けることを実現するためにも、家族への 支援が最も重要となる。さらに、東日本大震災及び原子力災害による環境の変化 や見通しが立たない長期化した避難生活等により、飲酒が絡む相談や支援の困難 さが支援者から報告されており、アルコール関連問題への支援を一層強化してい くことが重要となってきた。

> このような中、福島県がふくしま心のケアセンターに委託し、平成26年度から 「地域アルコール対応力強化事業」を展開しており、相双地域をモデル地域とし、 医療を含めた地域で支える仕組み作りの事業を実施しているが、家族への支援は 個別相談の場のみであり、家族教室や家族会等の社会資源が不十分な状況である。 そこで、アルコール関連問題を持つ本人の回復と家族の回復を目指し、相双地域 における家族への支援を充実させるため、アルコール家族相談事業を実施する。

場 所:南相馬市原町保健センター

対 象:アルコール依存症(あるいはその疑いのある方)の家族

開催日	内容	参加者数
5/26	①オリエンテーション	2 名
	②家族交流	1000000
6/28	①家族相談・交流	
	②状況をはっきりさせよう~飲酒行動マップづくり~	3名
	③暴力への対策〜安全な対応を練習する〜	
7/19	①家族相談・交流	1名
8/30	①家族相談・交流	24
	②コミュニケーションを変える	3 名
9/27	①家族相談・交流	
	②状況をはっきりさせよう~飲酒行動マップづくり~	3名
	③暴力への対策〜安全な対応を練習する〜	
11/29	①家族相談・交流	1名
12/20	①家族相談・交流	0.4
	②コミュニケーションを変える	3名
1/31	①家族相談・交流	
	②イネイブリングをやめる	3名
	③家族自身を豊かにする	24,7650
2/28	①家族相談・交流	1名
3/14	①家族相談・交流	2名
	②全体の振り返り	2 30

主 体:福島県相双保健福祉事務所が、精神科医療機関等の関係機関の協力を得て実施

共 催:(一社)福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

7) その他の協力事業

① 福島県県北保健福祉事務所アルコール家族教室への協力

目 的:アルコール関連問題を抱える家族を対象に、学習とミーティングの場を提供する ことにより、家族が問題解決方法を学び、家族相互の支え合いにより家族自身の 回復を図ることを目的とする。

場 所:福島県県北保健福祉事務所

対 象:アルコール関連問題を抱えている家族

主 催:福島県県北保健福祉事務所

日時	内容	参加人数
5/19	安全第一 (暴力への対策) 状況をはっきりさせよう	15 名
6/16	コミュニケーションを変える① 望ましい行動を増やす方法	8名
7/21	コミュニケーションを変える② イネイブリングをやめるとは?	7名
9/15	生活を豊かにする 治療をすすめる	10 名

② 福島県県中保健福祉事務所アルコール家族教室への協力

目 的:アルコール関連問題を抱える家族を対象に、学習とミーティングの場を提供する ことにより、家族が問題解決方法を学び、家族相互の支え合いにより家族自身の 回復を図ることを目的とする。

場 所:福島県県中保健福祉事務所

対 象:県中地域(郡山市を含む)に居住し、アルコール関連問題を抱える家族

・入門コース:初めて本教室に参加し、かつアルコール依存症に関する学習経験のない方

一般コース:原則として入門コースを受講したことのある方。もしくはアルコールに関する学習経験のある方

日時	内容		参加者数
6/29	①入門コース	飲酒行動マップづくり	7名
	②一般コース	ミーティング、DVD 視聴	1.30
7/27	①入門コース	飲酒行動マップづくり	= //
	②一般コース	ミニ講話「安全第一(暴力への対策)」、ミーティング	5名
8/24	①入門コース	飲酒行動マップづくり	0.42
	②一般コース	ミニ講話「目標設定」、ミーティング	9 名

主 催:福島県県中保健福祉事務所

③ コミュニティ強化法と家族トレーニング (CRAFT) 勉強会

日 時: 平成29年10月25日(木)

場 所:福島県精神保健福祉センター

対 象:各保健福祉事務所、福島県精神保健福祉センター職員

参加者:9名

内 容:講義「CRAFT について」

グループワーク「家族教室の運営の課題と解決策」

講師 ふくしま心のケアセンター県北方部センター 方部課長 松田聡一郎

主 催:福島県相双保健福祉事務所

アルコール・プロジェクトからは県北方部の松田課長と羽田専門員が講師と して参加し、CRAFTの基礎的な概要の講義や、福島県相双保健福祉事務所およ び福島県県北保健福祉事務所でのアルコール家族教室の取り組みについて報告 を行った。

④ 東北アルコール関連問題ソーシャルワーカー研修会

日 時: 平成29年5月21日(土)~5月22日(日)

場 所:ラフォーレ蔵王リゾート&スパ

参加者:130名

アルコール・プロジェクトからは基幹センター業務部企画課の岩見主任専門 員が参加し、プロジェクトの取り組みを報告した。

⑤ 第1回AA 相双フェローシップ

日 時: 平成29年7月16日(日)

場 所:展望の宿 天神

参加者:約60名

アルコール・プロジェクトからは基幹センター業務部企画課の岩見主任専門 員がゲストスピーカーとして参加し、ふくしま心のケアセンターの概要とアル コール・プロジェクトの活動報告を行った。

⑥ アルコール関連問題学会東北ブロック大会

日 時: 平成 29 年 10 月 28 日(土)~29 日(日)

場 所:ホテルリステル猪苗代

内 容:111名

東北ブロックの各地区から参加。ふくしま心のケアセンターからは、アルコ ール・プロジェクト及びいわき方部センターから 7 名が参加した。アルコール 関連問題に関する東北各県の取り組みを共有し学びの機会となった。また、「災 害後に生じたメンタルヘルス上の問題とアルコール対策」について福島県立医 科大学主任教授の前田正治先生(当センター副所長)が特別講演を行った。

4. 課題と展望

本アルコール・プロジェクトも、今年度で開始後 4 年を経過することになる。開始当初 はスタッフも飲酒問題に対応することの戸惑いが大きく、お互いに学びながら試行錯誤の 日々であった。そのような私たちにとって、肥前精神医療センターのアルコール・グルー プが主導していた節酒アプローチとの出会いは大きく、また被災者に向けてどのようなケ ア・モデルで対応していいか、その糸口をつかめたことの手ごたえも大きかった。折しも 岩手県・宮城県でも同様のアプローチが始まっており、この震災が契機となって節酒アプローチが東北各県に少しずつ広まっていることを感じる。

福島県立医科大学の放射線医学県民健康管理センターで毎年行われている「こころの健 康度・生活習慣調査」によると、アルコール問題を抱えている可能性があるハイリスク住 民の割合は年々少しずつ減少している。こうしたデータをみると、我々のアプローチもま た何らかの貢献をしているかもしれない。データに一喜一憂してはならないが、このよう な結果を肯定的にとらえて、また明日からの活動に活かしていきたいと考えている。

CRAFT に関しては、本年度で福島県相双保健福祉事務所、福島県県北保健福祉事務所、 福島県県中保健福祉事務所への協力が終了となった。平成30年度は福島市と郡山市がそれ ぞれ CRAFT を用いた家族教室を実施する見通しであり、講師派遣の協力を行う予定であ る。

1) お酒の純アルコール量を量る単位

ふくしま心のケアセンター 地域アルコール対応力強化事業 (アルコール・プロジェクト) 相双地域におけるモデル事業 平成29年度 報告書

相馬広域こころのケアセンターなごみ (ふくしま心のケアセンター相馬方部センター)

目 次

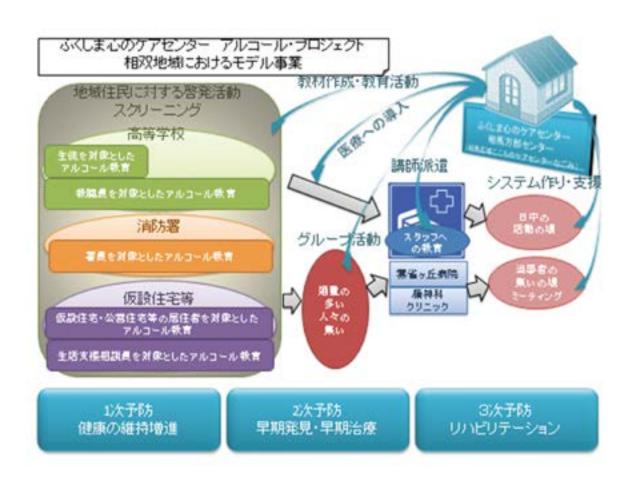
I. 相双地域におけるモデル事業の概要 ······	93
1. 本事業の枠組み	
2. 本事業のメンバー	
3. ミーティングの開催	
The Deadersteen the Market Light	
Ⅱ. 平成29年度の実施内容	95
1. 高等学校への啓発活動	
2. 消防署への啓発活動	
3. 住民への啓発活動	
4. 酒量の多い人々へのアプローチ「男性の集い」	
5. 雲雀ヶ丘病院での勉強会・事例検討会	
6. 動機付け面接法に関する研修会の開催	
7. アルコール依存症へのアプローチ	
8. 関係機関との連携	
Ⅲ. 今年度の振り返りと次年度に向けて	102

相双地域におけるモデル事業の概要

1. 本事業の枠組み

本事業は、平成 26 年度より実施されている「ふくしま心のケアセンター 地域アル コール対応力強化事業」の一環として、相双地域において展開しているモデル事業であ る。初年度には、下記の図のような枠組みで展開することを計画し、実施してきた。平 成 29 年度においても、基本的にこの計画に基づいて活動を継続させた。

なお、NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こ ころのケアセンターなごみ(以下、「なごみ」とする)は、(一社)福島県精神保健福 祉協会より、ふくしま心のケアセンター相馬方部センターの業務委託を受けており、本 事業を実施している。



2. 本事業のメンバー

平成29年度は、下記のメンバーにて活動を行なった。

- ■大川 貴子 (福島県立医科大学看護学部、NPO法人相双に新しい精神科医療保健 福祉システムをつくる会)
- ■米倉 一磨 (相馬広域こころのケアセンターなごみ)
- ■工藤 慎吾 (相馬広域こころのケアセンターなごみ)
- ■田中 久美子 (訪問看護ステーションなごみ)
- ■宮川 明美 (福島県立医科大学災害医療支援講座、雲雀ヶ丘病院、ふくしま心の ケアセンター)
- ■髙橋 紀子 (福島大学)

3. ミーティングの開催

本事業のメンバーによるミーティングは以下12回、開催した。

- 第1回 4月19日(水)18:30~19:30
- 第2回 5月17日(水)18:00~19:30
- 第3回 6月20日(水)18:00~19:30
- 第4回 7月19日(水)18:30~20:00
- 第5回 9月 6日 (水) 18:00~20:00
- 第6回 10月 18日 (水) 18:15~20:00
- 第7回 11月 8日(水) 18:00~19:15
- 第8回 12月18日(水)18:30~19:30
- 第9回 1月17日(水)18:30~19:30
- 第10回 1月24日(水)18:30~19:30
- 第11回 2月 6日 (火) 17:30~18:00
- 第12回 3月 7日 (火) 17:30~18:00

Ⅱ. 平成 29 年度の実施内容

1. 高等学校への啓発活動

本年度は、相馬高等学校からの依頼を受け、7月6日に、3年生を対象とした健康講話を、「アルコールと健康」というテーマで行なった。以前に高校生を対象に実施したアルコール関連問題の実態調査の結果を説明した上で、アルコール教育のために作成されたDVDやパンフレットを活用し、アルコールが身体や精神に及ぼす影響についてや、急性アルコール中毒、アルコール依存症の状態および予防方法等について説明を行なった。また、アルコールに関する問題についての相談窓口についても具体的に提示した。生徒からは、アルコールが引き起こす問題の怖さを実感したことや、アルコールとの付き合い方について考えたことなどが、フィードバックされた。

また、8月21日には、相双地域における高等学校の養護教諭が集まる相双支部養護教諭部会に参加し、同地域の高校生のアルコール健康問題に関する実態調査の結果、および、今までに実施した高等学校でのアルコール教育の内容やその反応について共有し、今後の対応方法などについて意見交換を行なった。

2. 消防署への啓発活動

平成 28 年度に、相馬地方広域消防本部職員を対象に、アルコール飲酒に関する研修会で実施した。この研修会においては、国立病院機構肥前精神医療センターが問題飲酒行動へのアプローチ方法の一つとして開発した「HAPPY プログラム」を参考にし、1回の研修会で実施できる内容にして、全消防署職員 140 名を対象に実施した。今年度は、研修会の効果について明らかにするためにアンケート結果を研究として分析することに同意の得られた 50 名分のアンケートについて分析した。

参加者のアンケートより、1.アルコール飲酒行動について客観的量的に把握できるスクリーニングテスト(AUDIT)があることを知ったこと、2.お酒を飲まないことによるメリットの把握ができたこと、3.お酒を減らす具体的方法の学びとなったことが、本研修会に参加することによる学びとして多くあげられた。

なお、本研究の結果は、平成30年6月9日に行われる、第17回トラウマティック・ ストレス学会にて報告する予定である。

3. 住民への啓発活動

1) アルコール問題に対する啓発キャンペーン

アルコール問題に対する啓発キャンペーンとして、平成 29 年 12 月 20 日に相馬市・ 南相馬市の商業施設 5 ヵ所にて、関係者会議の参加者の意見を反映しパッケージ (なご みが連絡先のラベルシールを貼った封筒)にしたパンフレットや心のケアセンターのチ ラシを住民へ配布した。

このキャンペーンには、相馬 広域消防署、相馬・南相馬警察 署、相双保健福祉事務所、南相馬 市原町保健センター、南相馬市 社会福祉協議会にも御協力を頂 いた。



南相馬市フレスコキクチ前の様子

2) 仮設・借上げ住宅サロン等健康講話

南相馬市からの委託でアルコール関連問題に関する健康講話を平成 29 年 11 月~12 月にかけて 7 回実施し、103 名の応急仮設住宅住民及び借上げ住宅住民が講話に参加した (表 1)。配布資料として、酒造会社が発行している「どうする?どうなる?お酒のこと」のパンフレットを使用して説明を行った。また、アルコールに関するミニクイズ(全 5 間の選択問題形式)を行い、適度な飲酒量や多量飲酒することで起きる体の影響等について解説をした。

参加者の反応としては、「普段飲んでいるお酒の量が適正飲酒量以上であることを学 んだため飲酒量を減らしたい」という声や「バンフレットを家族にも見せてあげたい」 という声があがった。

表 1	南相馬市・	必数 100m (1数 30 m)	単に有能でいる。
200 4	144 144 500 414	PERMIT	ACMEL 141

実施日	開催場所	参加人数
11月8日	原町区福祉会館視聴覚室	27 名
11月9日	大木戸大鹿応急仮設住宅集会所	3 名
11月10日	小池長沼東応急仮設住宅集会所	1名
11月22日	小高保健福祉センター	22名
12月12日	南相馬市市民活動サポートセンター	9 名
12月13日	小池第3応急仮設住宅集会所	6名
12月20日	小高保健福祉センター	35 名

4. 酒量の多い人々へのアプローチ「男性の集い」

平成 27 年 11 月より飲酒量の多い男性に対し、飲酒する時間を減らしながら社会的な役割を獲得し、自尊心の向上を図ることを目的とした日中活動の場を始めた。昨年度から引き続き、なごみ相馬事務所を会場に、月1回の頻度にて開催している。各月の実施内容は、表2のとおりである。

今年度は、新しい試みとして、宮城県石巻市で活動しているからころステーションの 「おじころ」(独居男性を対象にしたサロン)に参加する企画をした。そこでは、なご みの「男性の集い」にて以前に行い好評を得た「大蛇巻き作り」を二団体合同で行った。 「大蛇巻き」は 8m75cm と大作になり、石巻の方々とも交流が図れて、よい機会となった。

男性の集いを、酒量の多い人々に限定せず、孤立しがちで話すのが苦手な方や集団活動になじめない方も対象にしたことで、11 月に入ると新規利用者が増えた。代わりにこれまで参加していた方の中には新たなことを始めたり、体調等の変化があって卒業の意思表示をされる方もいた。

普段自宅では自炊しない人がほと んどではあるが、この集い内では各自 役割をもって活動に参加して楽しめ ている様子がうかがえた。参加者から は「男性の集いを毎回楽しみにしてい る」「みんなと一緒に食事をすること の喜びを感じることが出来た」などの 感想が出ている。



9月のからころステーションでの大蛇巻き作り

表 2	T. HIE John CEN	office at the same	実施内	1000
200 2	1.991キリス	383 U 1	-305 79H 57%	200
200	of the Annahum Co.		- W. (Tibo 1 - 4	9-8

日時	参加人数	実施内容
4月18日	6名	弁当作り・花見
5月23日	5名	風上げ・BBQ
6月4日	3名	なごみ感謝祭出展手伝い
7月18日	4名	流しそうめん
8月29日	3名	パークゴルフ・入浴
9月10日	2 名	からころステーション (おじころ) 見学
10月17日	3 名	登山・入浴
11月14日	9名	芋煮会
12月19日	7名	クリスマス会
1月16日	4名	餅つき
2月20日	5名	恵方巻作り
3月20日	3名	たこやき作り

5. 雲雀ヶ丘病院での勉強会・事例検討会

平成26年度よりアルコール依存症患者および家族への対応や効果的な介入について 学び、地域の対応力強化を図ることを目的とした勉強会・事例検討会を開催している。 今年度は2回(平成26年度から通算、第7回目・第8回目)の勉強会・事例検討会を 開催した。

◇第7回 平成29年6月29日(木)

講義テーマ:「アルコール依存症者への関わり~一周回って、振り返り~」(資料 1)

駒木野病院 アルコール総合医療センター

副センター長 看護師 宮脇真一郎先生

看護師 関口 慎治先生

事例検討会:津波で家族を亡くしたアルコール依存症患者の事例

参加者:講義21名、事例検討会21名

◇第8回 平成29年10月26日(木)

講義テーマ:「これからのアルコール依存症治療のあり方」(資料2)

駒木野病院 アルコール総合医療センター

センター長 医 師 田 亮介 先生

看護師 浦崎 なつみ先生

事例検討会:仮設住宅在住中にアルコール依存症が発覚し、なごみが支援して入院へ

至った事例

参加者:講義24名、事例検討会24名

当初3年1クールと考えて始まったアルコール対応力強化事業の一環である勉強会は、4年目の今年、引き続き20名以上の参加者を維持できた。地域に密接に関連した症例が紹介され、その中で対象となる患者への介入方法と同時に、支援者が抱えている葛藤が率直に話し合われ、一部葛藤を解消できる場面もあり、それぞれの参加者にとって実りあるものであったと考えられた。また、底尽き体験にこだわらず、むしろ地域、支援、医療のつながりの中に対象者を置き続けることの重要さを確認し、これからの支援のあり方について少しずつ地域の中で考え方を共有できるようにもなってきていると考えられた。今後もこのように、地域全体で考え方の共有を図る場が継続的に提供されることの重要性を実感するものとなった。

なお、雲雀ヶ丘病院での4年間にわたる勉強会の集大成として、今年度は、過去3年間にこの勉強会に参加してくれた医療・保健・福祉関係者の方々のうち、2回以上参加された方20名を対象にアンケートを実施した。その結果、18名の方から回答が得られた(2回参加:6名・3~5回参加:7名・6~8回参加:5名)。

勉強会・事例検討会に参加したことによる変化について尋ねたところ、アルコール依 存症の病気のことや対応方法については多くの方が理解したと回答した。アルコール依 存症者やその疑いがある方へのかかわりについては、参加者の8割近くは積極的にかか われるようになったという回答を得た。その一方で、残りの2割は積極的にかかわるよ うになったとはあまり思わないと回答している。勉強会を通じて地域連携がしやすくな ったかという問いに関しては少し思うと感じる人が最も多く、回答の6割を占めていた (表3)。

表3 アルコール依存症に関する勉強会・事例検討会に参加しての変化

n=18 ※一部無回答あり

# # # P	とても	すこし	あまり	まったく
質問項目	そう思う	思う	思わない	思わない
アルコール依存症とはどのような疾患であるかを理解できた。	11	7	0	0
アルコール依存症患者への治療の原則が理解できた。	7	10	1	0
アルコール依存症患者への対応方法について理解できた。	7	11	0	0
アルコール依存症患者の家族への対応方法について理解できた。	6	11	.1	0
アルコール依存症患者に対するイメージが変わった。	8	8	2	0
アルコール依存症患者に対する態度が変わった。	5	9	4	0
アルコール依存症(疑い)患者と接しやすくなった。	6	8	3	0
アルコール依存症(疑い)患者に対して積極的に関われるようになった。	4	9	4	0
アルコール依存症(疑い)患者の家族と接しやすくなった。	3	10	5	0
アルコール依存症(疑い)患者の家族に対して積極的に関わるようになった。	3	9	6	0
アルコール依存症(疑い)患者のことについて施設内連携がしやすくなった。	4	8	6	0
アルコール依存症(疑い)患者のことについて地域連携がしやすくなった。	2	8	3	0

今後の勉強会・事例検討会に対する要望としては、アルコール依存症の患者を抱える 家族への関わり方や、これまで通り事例検討会は継続してほしいという意見があがった。 また、年度末に勉強会・事例検討会に参加してくれた方(5名)に対して、ヒアリン グ調査も実施しているが、その結果については次年度に報告する。

6. 動機付け面接法に関する研修会の開催

アルコール依存症者に関わる支援者の対応力の向上を目的 とし、動機付け面接法の研修会 (モチベーショナルインタビ ューワークショップ) を 8 月 19 日 (土) 13:00~16:00、 8 月 20 日 (日) 9:00~16:00 の 2 日間にわたり相馬市総合福 祉会館(はまなす館) で開催した (資料 3)。

講師を駒木野病院アルコール総合医療センターの関ロ慎治 氏(看護師:動機づけ面接トレーナー)、東北会病院の金田 和大氏(作業療法士:動機づけ面接トレーナー)に依頼し、 参加人数は、両日16名であった。参加者の所属は、心のケ アセンター職員、精神科病院看護師、福祉事業所職員などで あった。



参加者からのアンケートによると、研修内容は職場で実践できる技術が多く、今後の

支援に活かすことが出来そうだという意見が多数あった。今後の研修会の希望としては、 継続的な開催や初級・応用などに分けてグループワークが出来ると良いと意見があげら れた。

7. アルコール依存症へのアプローチ

平成27年4月より月2回、第2、第4土曜日、なごみ相馬事務所にて「相馬うぐいす断酒会」の開催の支援は、今年で3年目となった。

平成29年4月から平成30年3月までに計23回開催し、延べ参加者は74名であった。1回あたりの平均参加人数は3.2名となっている。昨年度と比較すると参加者は月平均1.8名減少している。しかし、東日本大震災後、双葉や南相馬の断酒会が休会している状況は続いており、今後の断酒会のあり方については、主催者の方々と意向を確認していきたいと考えている。

8. 関係機関との連携

平成 29 年 11 月 15 日、南相馬市消防・防災センターにて関係者会議を実施した。断 酒会、AA、相双保健福祉事務所、相双地域の保健センター、社会福祉協議会、医療機

関、15名が参加した。

はじめに、アルコールプロジェクトリーダー大川より「相双地域におけるモデル事業」の経過報告をした。 その後、相馬広域こころのケアセンターなごみの米倉より、NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会が支援をしたアルコール関連問題の対象者 55 名について報告した。

55 名の対象者のうち男性が 90% で、世代は 50 代から 80 代までが



74%を占めている。東日本大震災が影響を及ぼしている方は、65%、仕事を喪失または 辞めた対象者は 29%であった。単身生活者は、59%である。震災前後と比較し飲酒量 が増加した方は、50%である。このことから、単身男性の比較的高齢で、仕事や役割を 喪失した方が対象者として紹介されることが分かった。

支援後の変化は、全体の 50%が 1 年以上の支援を行い、48%が現在(平成 29 年 10 月現在)も支援を継続している。受理時と支援後で大きな変化が見られたことは、支援開始後、何らかの医療機関に結びついたことである。支援開始前に 47%であった受診率が支援開始後は 95%と上昇している。飲酒量の変化については、支援後、断酒または減少している方は、48%である。断酒した方の特徴としては、断酒会や男性の集いに継続的に参加する、来所相談や訪問看護や密な訪問サービスを行うなどしていた。また、

地域での生活が困難となった時に、グループホーム、高齢者施設の入居を勧めていた。 以上の結果から、紹介されたアルコール関連問題の対象者で明らかになったことは、 震災の影響で酒量が増加する 50 代以上の男性が多いこと、早期に医療につなぎ、切れ 目のない支援を行い、集団の場へ結びつけることが断酒への近道と言えることである。 会場からは、「男性の集いが敷居が低く参加しやすい」「アルコール関連問題に関する関 係者会議等によって本人や家族が支援につながりやすくなるのでは」「本人ではなく家 族が困っていることが多く、本人の支援につながりにくい」などのご意見をいただいた。

次に、訪問看護ステーションなごみの田中より当プロジェクトが作成している当事者 や家族の方々に相談窓口を周知するための「アルコール問題お役立ちガイド」について 説明した。昨年度の関係者会議での意見を受け、各機関にアンケートを実施した結果、 「資料を公共機関や商業施設に設置する場合、問い合わせ先(責任の所在)を明記して ほしい」「どう広げていくかが課題。広報の方法を検討する必要がある」「ターゲットを 誰にするのかが重要」などの意見があった。

これらの意見を踏まえ、パンフレットは既存のものを活用し、相馬広域こころのケア センターなごみの連絡先をラベルシールにした透明な封筒を提示した(図 1)。参加者 からは、「保健所は敷居が高いので、なごみに窓口になってもらえれば良い」「住民から すると、なごみの方が電話しやすい」などのご意見をいただいた。



図1 ラベルシール

Ⅲ. 今年度の振り返りと次年度に向けて

平成 26 年度より開始した本プロジェクトも 4 年が経過しようとしている。5 年目を 迎えるにあたり、今までの活動を振り返りながら、今後の活動の方向性について検討を していくことが求められている。

1次予防については、震災のあった年から関わりをもち、関係を築いてきた高等学校 や消防署との連携を基盤にして、健康教育を試みてきた。実態把提調査や、介入方法の 検討についても協力を頂き、取り組むことができた。今後も、今までに培ってきた協力 関係を維持しながら、それぞれの場におけるニーズに応じた予防的活動を模索していき たい。

また、被災者を対象とした健康教育については、本年度より、仮設住宅・公営住宅の 居住者を対象とした「健康講話」の中にアルコール教育を取り入れた。酒造会社が作成 し提供している教材なども活用して実施したところ、住民の方々からは好評であった。 相馬広域こころのケアセンターなごみでは、今まで様々な資料や方法を用いてアルコー ルに関する健康教育を実施してきており、今後は、これらの教材やノウハウを整理し、 "アルコール教育プログラムのパッケージ化"を図っていきたい。

2次予防については、平成27年の秋より、ひきこもりがちで、アルコールの問題をもちやすい男性を対象にして「男性の集い」を開催してきた。2年以上継続してきた中では、この会に参加しながら、少しずつ社会との繋がりがもてるようになっていき、生活の建て直しができていった方もあった。メンバーの入れ替わりもあり、この会の目的や活動内容の再検討も行なってきた。従来のサロン活動では、言語的コミュニケーションが主体となることが多かったが、男性を対象とする場合、言語に頼らず、創作活動を通じて自己表現を図っていくことの重要性が確認され、木工を活動の中核にして展開していくことが提案された。今後は、自宅にて引きこもっており、集団活動には馴染みにくいアルコール依存症のケースなどにも、木工という創作活動をツールとして、出前型の支援なども試みていき、活動の幅を広げていきたい。

2次~3次予防に関して、平成26年度より、雲雀ヶ丘病院において勉強会・事例検 討会を計8回開催してきた。今年度は、今後の開催方針について検討していくために、 今までに本勉強会・事例検討会に複数回参加された方を対象に、アンケートを実施した。 その結果、勉強会を通してアルコール依存症についての理解が深まっており、多職種・ 多機関での連携が図れるようになってきたことが伺えた。このような会の継続開催の要 望は多く、地域の関係者で学びあっていく場をもち続けていきたい。

また、毎年開催している関係者会議については、地域のアルコールに関する問題を共 有し、支援体制を構築していくために意義のある場であると考えている。本プロジェクトを実施してくる中では、アルコール依存症の方々が回複していくためには、アルコールに頼らない生き甲斐を探せるような支援が重要であり、医療のみではなく、様々な分野の人たちと共同して、支えあう地域づくりや、生活を整えるような拡大支援が重要であることを実感している。そのようなネットワーク作りを行なっていくためにも、このような関係者会議を継続的に行なっていくことの意義は大きいと考える。 本モデル事業を開始して早4年となり、地域の状況も変化してきており、プロジェクトの活動を通じて得た知見を活かしながら、当初掲げたプロジェクトの構想図に手を加える時が来ている。 平成 30 年度には、今後どのような事業内容にしていくことが望ましいのかをプロジェクトメンバーで検討し、関係者会議でもご意見を頂きながら、発展させていきたいと考える。

5 寄稿

「怒り」を胸において

南相馬市健康づくり課 保健師 小野寺 初枝

南相馬市に派遣されて

私は2013年(H25年)4月から福島県の任期付職員として南相馬市に入りました。実家が田村市(中通り)にあり、原発から40kmのところだと震災になって初めて意識しました。震災時は、退職1年目で、再任用として墨田区で働いていました。震災2週間目に大槌町に支援に入りました。その時元大槌町の保健師さんに「津波被害はいつか復興する。大変なことは放射能のことだよ」と言われながらも、津波被害の恐ろしさに何もできず東京に戻りました。しかし日を追うごとに、放射能を学ぶにつれ、生き方を変えないとだめだと痛切に思い、福島県で保健師の仕事をしたいと思うようになりました。震災2年目に県の募集を知り、南相馬市に派遣となり今に至ります。6年目になりました。

1年目は、健康推進担当で、3地域の高齢者の健康調査をしました。65歳以上の高齢者を抽出し、訪問調査しました。まだ放射能の線量が高く、半分も住んでいない地域でした。行政区長さんの希望もあり夜に講演会を集会所で実施しました。放射能は心配ないという講師に、私個人としては不満が残りました。2か所目は、鹿島区、野菜もつくれます。ねぎの産地でした。90歳の夫婦がつくったねぎに感激しました。3か所目、津波被害の大きかった地域でした。印象に残ったのは、津波が土手を走るのが大きな牛の群れかと思ったということです。飼っていた牛が流されたが、遠くで生きているのが見つかり、その子牛がこれだと見せていただいた時は涙が出そうでした。保健師としての経験はあっても、地域を知らない中でこの経験は、住民の方に直接ふれ話を聞くことができ、南相馬市で仕事をしていけそうだと感じられたことでした。

2年目は、精神保健を担当しました。個別相談、ゲートキーパー養成研修会、 講演会などを担当しました。応急仮設住宅での死亡が相次ぎ、孤独死の問題が新聞に出るたび、対策を含め考えさせられました。朝からアルコールを飲み続ける 人、暑くてもカーテンも開けず返事もない人、近隣騒音、ごみ問題、狭い空間の ため問題視されました。

震災後は、相馬方部センターとの協力、連携もあり、クリニックや精神科病院の先生の訪問協力、アウトリーチこれらがなければ対応は困難を極めたと思います。ひきこもり(40代、50代の)の対応もこれまで経験したことのないケースが多く、震災が引き金になり事例化したと思います。南相馬市は精神科受診の敷居が高いと感じていますが、震災で大分低くなったと保健師さんは言っています。原発 20km 圏内も解除になり、やっぱり小高はいいなぁ、風が違うという声にジー

ンときたことも忘れられません。

被災地を思うとき (それぞれの選択により添う)

南相馬市で働きながら、これまでの経験をいかすことができました。しかし「復興ってなんだろう」といつもくすぶっているものもありました。福島の復興についての勉強会に参加しながら、講師の「怒り」の思いになんども触れる機会がありました。どうにもならない怒りが、これを知らずして死ねないと言っておられるように感じました。その「怒り」が文字やことばになり私の心を打っているのだと感じています。訪問や相談をしながら何度もこの怒りに触れました。一挙には理解できないが、現状復帰できるまで、私はこの怒りを学んでいこうと思うようになりました。私にできることは、ここで生きると覚悟を決めた方たちが希望をなくすことなく暮らしていけるように、保健師の仕事を通して、一緒に考えていくことかと思っています。生意気なようですが、これが今の私のそれぞれに選択により添うことです。

6 職員の感想 (振り返って思うこと)

*県北方部センター 佐藤裕美 (看護師) -

新任職員として県北方部センターに入職し一年になります。避難指示解除が進む中、復興公営住宅への転居や避難先での住宅再建など生活環境を変えなければいけない方々の負担感は計り知れません。関わらせていただいている方の中にも新たな環境で生活を始めた方がいます。「どうしてこんな所に住まなくてはいけないのか。生まれ育った場所に帰りたい」という言葉が強烈に印象に残っています。現在の生活は被災された方々にとって本意ではない生活であるのだと改めて感じました。

「置かれた場所で咲きなさい」これは私の好きな言葉です。置かれた場所で花を咲かせることは容易なことではありませんが、被災された方々が、本意ではない生活環境にありながらも、置かれた場所で花を咲かせる心を持つことができるよう、被災された方々に寄り添い今後も活動していきたいと思います。

*県中・県南方部センター 佐竹美紀 (精神保健福祉士) -----

2017年4月に心のケアセンター県中・県南方部センターへ入職し1年が経過した。この1年は初めての土地で、心のケアセンターの職員として自分にできることは何かを模索した年であったと感じている。

訪問先で、「こんなはずではなかった」「帰りたい」「寂しい」という言葉を耳にする機会がある。震災から7年が経過し、環境面の整備が進む中、住民の気持が現状に追い付いていないと感じることがある。そんな中、少しでも今の生活を大切にしたいという思いに触れる場面もあり、人がもつしなやかな強さに胸を打たれた。

こうした出会いや体験を踏まえ、心のケアセンターの職員として、新たな選択と環境への適応を求められる住民の方、ひとりひとりの気持ちに寄り添いながら、丁寧な支援を継続していきたいと考えている。

*県中・県南方部センター 割栢啓美 (臨床心理士) ----- *

2017年4月に新規採用職員として県中・県南方部センターに入職しました。 入職を希望したきっかけは、被災された方に対する多職種チームの協働支援に 魅力を感じたからでした。私自身、経験の少なかったアウトリーチから多くの ことを学ぶことができ、他の機関とは異なる"ケアセンターだからできる支援" を実感することができました。

また支援を通して、一見問題なく生活が送れている方々でも、さまざまな問題と向き合って感情が揺れ動いていることを知りました。そのような状況の中で、柔軟な対応と必要な支援をアセスメントできる力が求められているように感じました。今後も、関係性を大切にしながら、必要な支援が提供できるよう、日々精進していきたいと思います。

*会津方部センター 宗像きみ子(保健師) -----

震災発生時、私は行政機関におり、直後から避難者への支援や支援者の受入れ、被災市町村や関係機関との調整等を3年ほど担当しました。これらの活動を含め保健師としての経験が被災者支援に役立つのならと思い、2017年4月に心のケアセンター職員に加えていただきました。

震災から7年が経過し本県の復興は進んでいますが、個々の避難者は問題を 抱えたままだったり、長期化する避難生活で新たな問題が生じたりと原発事故 による避難の影響の大きさ・複雑さを実感しています。

訪問した女性から発せられた「目的のない暮らしは辛い」との言葉が7年経った今の現状を伝えているように思いました。

このようななかで私に何ができるのか心許ないのですが、当センターの強み である「多職種専門職チーム」を生かして、相手を尊重し、その方の持つ力が 出せるようそして希望が見いだせるような支援をしていきたいと思っています。

2017年度から相馬方部センターの専門員として勤務しています。初めは業務に慣れることで精一杯でしたが、現在はアルコール関連問題の個別ケースを通じて様々なことを学び、実践にも力を入れて取り組んでいます。男性はなかなか地域の活動等に積極的に参加されないので孤立しがちですが、寂しさや不安と隣り合わせでどうしたらいいのかわからない方も多いように感じます。そのような中高年の男性が少しでも飲酒する時間から離れ、本人たちの強みを生かして地域貢献できるようになればいいと思います。

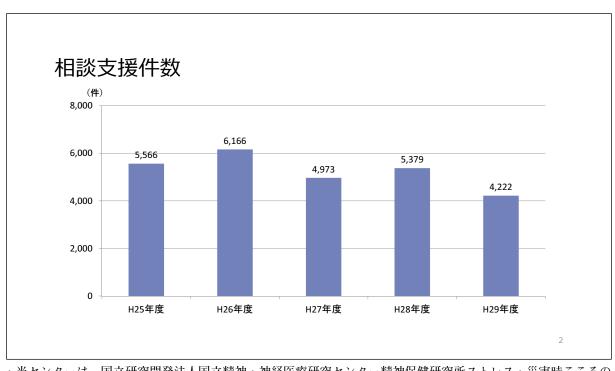
7 活動資料

ふくしま心のケアセンター

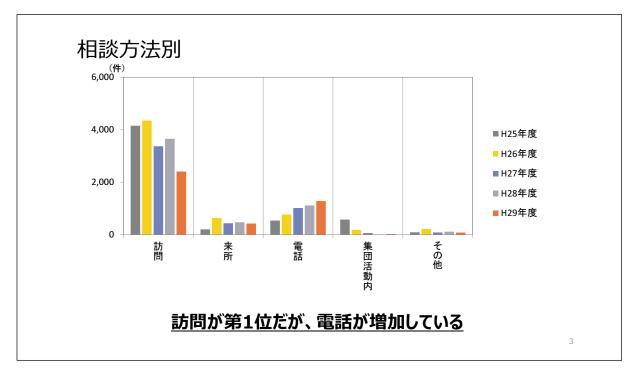
活動の経年変化



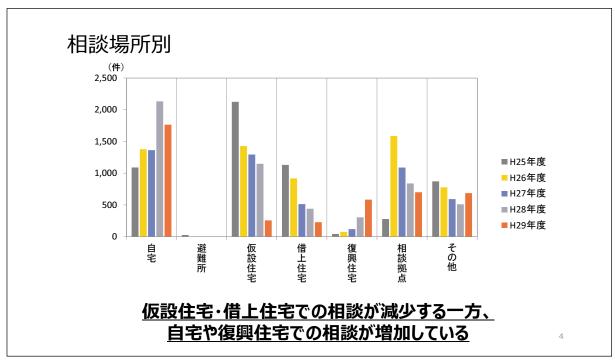
1



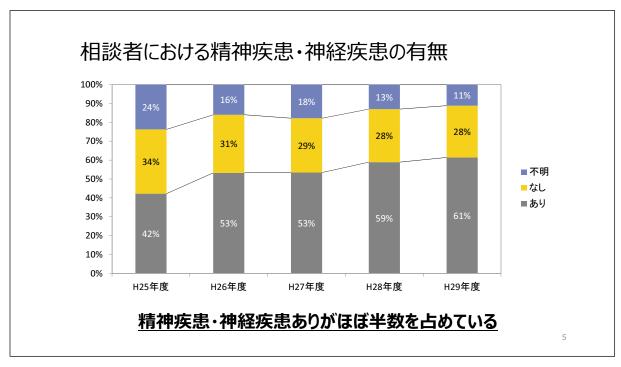
- ・当センターは、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所ストレス・災害時こころの情報支援センター(旧 災害時こころの情報支援センター)が管理・運用していた災害精神保健医療情報支援システム(Disaster mental health information support system: DMHISS, 2018 年 3 月 31 日運用終了)を用いて活動報告・データ集積を行ってきた。ここでは、DMHISS を用いて年度の集計ができるようになった 2013(平成 25)年度から5年間の実績を報告する。
- ・相談支援件数は、2014(平成26)年度がピークであった。



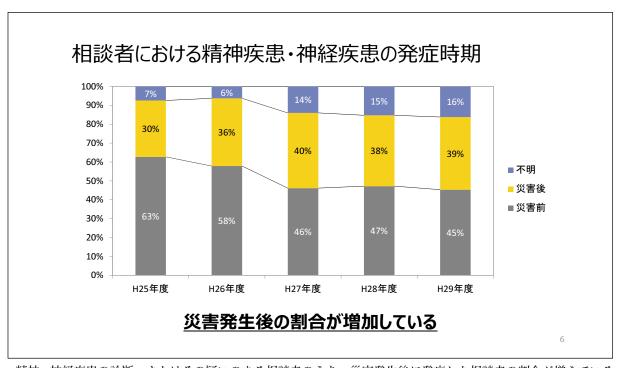
- ・相談支援の中心は訪問である。
- ・電話相談の件数が増加している。
- ・集団活動内での相談は減少している。後述のように、集団活動の件数・参加者数も減少している。



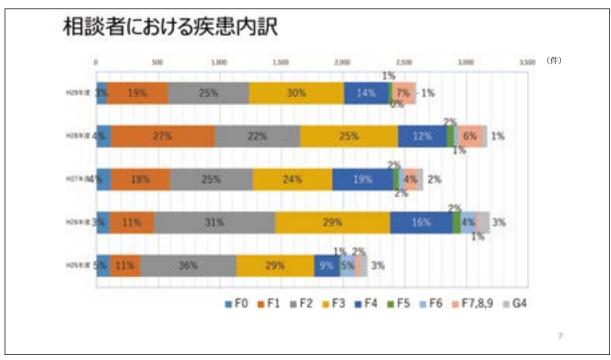
- ・自宅での相談は増加傾向にある。
- ・福島県内の避難所は、2012(平成 24)年2月21日までに全て閉鎖された。また、埼玉県加須市を中心に活動していた加須市(双葉町埼玉支所)駐在が相談支援を行っていた旧騎西高校避難所も、2013(平成 25)年12月27日をもって閉鎖となった。このため、避難所での相談支援は、このグラフにはほとんど示されていない。
- ・仮設住宅、借上住宅での相談は、2013(平成25)年度をピークに減少している。
- ・復興住宅での相談が増加している。
- ・相談拠点(県や市町村が設置した相談場所、各方部・出張所が役場内等に設置した相談室など)での相談は、2014(平成26)年度をピークに徐々に減少している。



・精神疾患・神経疾患(ICD10 の F0 \sim 9 および G4)の診断、またはその疑いがある方に対する相談支援が、半数以上を占めている。



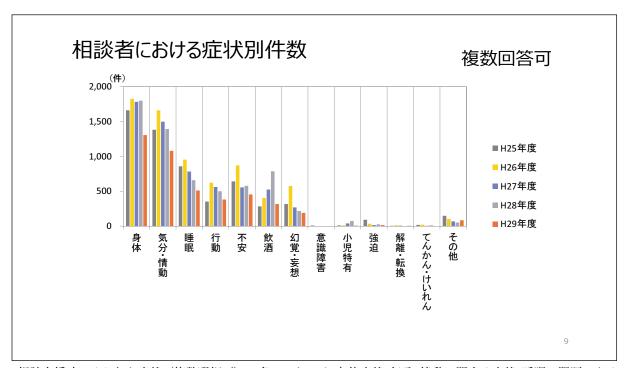
・精神・神経疾患の診断、またはその疑いのある相談者のうち、災害発生後に発症した相談者の割合が増えている。



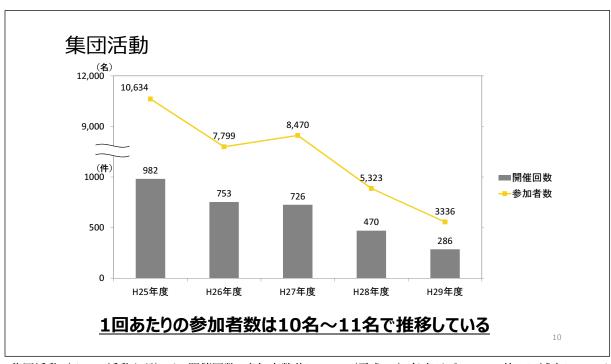
- ・精神疾患・神経疾患の診断、またはその疑いがある相談者の病名(ICD10 カテゴリ)別の割合を示す。
- ·F1 (精神作用物質使用による精神および行動の障害) の診断またはその疑いのある相談者は徐々に増加し、 2016 (平成 28) 年度がピークであった。

補足

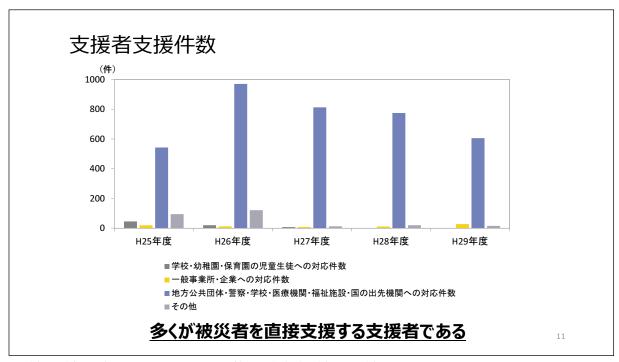
F0	症状性を含む器質性精神障害
F1	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
F2	統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害
F3	気分(感情)障害
F4	神経症性障害,ストレス関連障害及び身体表現性障害
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害
F7	精神遅滞(知的障害)
F8	心理的発達の障害
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
G4	挿間性及び発作性障害



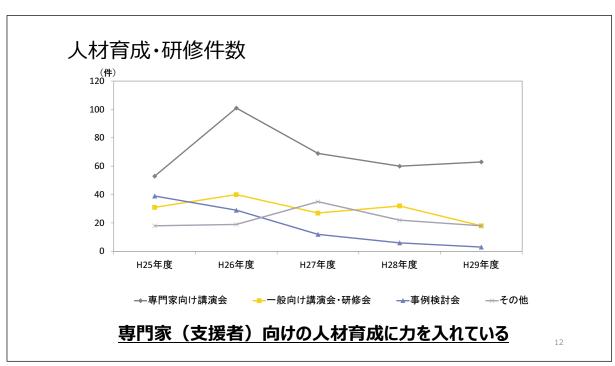
- ・相談支援時にみられた症状(複数選択可)で多かったのは、身体症状、気分・情動に関する症状、睡眠の問題である。 この傾向は、震災から時間が経過してもほとんど変わらない。
- ・不安症状は、時間が経過してもあまり変化がみられない。
- ・飲酒の問題は徐々に増加し、2016(平成28)年度がピークであった。
- ※身体症状:食欲不振、倦怠、腰痛 など
- ※気分・情動に関する症状:抑うつ気分、意欲減退、イライラ など
- ※小児に特有の症状:落ち着きがない、こだわり、夜尿 など



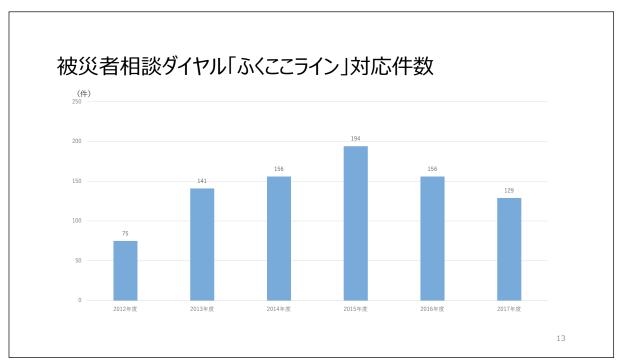
・集団活動(サロン活動など)は、開催回数、参加者数共に 2013(平成 25)年度がピークで、徐々に減少している。 ・1回あたりの参加者数は、平均 $10\sim11$ 名で推移している。



・支援者支援の対象は、地方公共団体など被災者を直接支援する支援者がほとんどである。



・専門家(支援者)向けの人材育成に力を入れている。



- ・被災者相談ダイヤル「ふくここライン」は、2012(平成 24)年 11 月 19 日から電話相談を開始した。「ふくここライン」は、平日の 9:00 \sim 17:00 に、当センター専門員が電話相談を受けている。
- ・対応件数は、2015 (平成 27) 年度がピークで、その後、減少傾向にある。

人材育成・研修会など

主催・依頼元	担当	事業名・テーマ	講師など	対象者	開催 回数	受講 者数
主催	基幹	アルコール TV 会議研修会	独立行政法人国立病院機構肥 前精神医療センター 杠岳文氏 ほか	市町村保健師、病院関係者	7	8
主催	相馬	高齢者メンタルヘルス研修会	公益財団法人星総合病院 田辺晃子氏ほか	高齢者支援関係者	2	13
主催	相馬	雲雀ヶ丘病院研修会	医療法人財団青渓会駒木野病院 宮脇真一郎氏、関口慎治氏	アルコール関連問題支援者	2	43
主催	基幹	地域アルコール対応力強化事業 平成 29 年度関係者向け研修会	地方独立行政法人佐賀県医療 センター好生館 福田貴博氏	市町村保健師、病院関係者 など	2	115
福島県相双保健福祉 事務所	いわき	平成 29 年度自殺予防ゲートキーバー養成研修会 (いわき地区)	公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 竹林由武氏 ほか	双葉8町村、南相馬市職員、 その他関係機関職員(生活支 援相談員、民生委員、コミュ ニティ交流員、保健協力員、 自治会役員 を含む)	1	53
主催	相馬	アルコールプロジェクト動機づけ面接ワークショップ	医療法人財団青渓会駒木野病 院看護師	アルコール依存症支援者	2	40
主催	会津	事例検討会	公立大学法人福島県立医科大 学 國井泰人氏	大熊町・会津保福・南会津保福・カムカム・大熊町教育委員会	2	19
主催	会津	支援者向け研修会	当センター	支援関係者	1	25
福島県県中保健福祉 事務所	基幹	平成 29 年度アルコール関連問題市民講座	国立大学法人福島大学 安部郁子氏	県中管内の住民および支援者	1	66
主催	県北	市民向け講演会「ふくしまを生きる~あなたにとっての「安心」とは~」	医療法人社団メンタルクリニック なごみ 副院長 須藤康宏氏	一般住民	1	39
主催	基幹	関係者向け研修会 「家族療法の視点からのアプローチ」	ルーテル学院大学・TELL カウンセリング 石井千賀子氏	支援者(自治体職員、社協職 員など)	1	68
福島県南会津保健福 祉事務所・当センター	会津	こころの健康づくり講演会	福島県障がい者総合福祉セン ター早坂 透氏	一般住民・支援者等	1	29
福島県精神保健福祉協会・当センター	会津	第 17 回心うつくしまふくしまフォーラム (講演会・鼎談)	公立大学法人福島県立医科大学医学部疫学講座 大平哲也氏 ほか	一般住民・支援関係者	1	173
主催	相馬	メンタライジング・アプローチ講演会	京都府立医科大学 崔炯仁氏	支援関係者	1	35
主催	県中・ 県南	 平成 29 年度 支援者のための研修会 フィンランド発、注目のアプローチ 対話のチカ ラ〜オープンダイアローグ〜	認定 NPO 法人世界の医療団理事・医療法人社団翆会みどりの杜クリニック院長 森川すいめい氏、訪問看護ステーションKAZOC 三ツ井直子氏	等の職員(各自治体、社協、	1	47
主催	いわき	支援者向け研修会	公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 竹林由武氏		1	43
主催	基幹	支援者向けストレスケア研修会	国立大学法人筑波大学 松井豊氏	支援者(自治体職員、社協職 員など)	1	39
主催	ふたば	支援者向け研修会	医療法人社団メンタルクリニック なごみ 副院長 須藤康宏氏		1	9
主催	県中・ 県南	平成 29 年度 復興支援者のための研修会 「支援者であり続けるために」	アスク・ヒューマン・ケア研修相 談センター所長 水澤都加佐 氏		1	51

講師派遣

担当	<i>ਜ</i> − ₹	対象者	開催 回数	受講 者数
県北	ストレスについて	学生	1	76
相馬	災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み	三重県立看護大学学生	1	105
県北	アルコール家族教室・アルコール家族相談会	アルコール問題のある家族	14	62
相馬	災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み	看護学部学生	1	100
いわき	ストレスと上手に付き合うために"うつ予防"	配電工事関係者	1	97
いわき	ふくしま心のケアセンター活動内容について	教養学部 生徒、教員	1	8
いわき	いわき市地区における心のケアセンターの活動状況について	教養学部 生徒、教員	1	7
基幹	心のケア事業について	生活再建支援拠点(相談スタッフ)、復興支援員受託団体(復 興支援員)	1	40
県北	熱中症予防、リラクセーション	浪江町を含む双葉郡の住民	1	19
県中・県南			1	91
基幹	県外避難者の心のケアについて「被災者支援のための視点とヒント」	生活支援相談員(福島県、 山形県、新潟県)	1	56
基幹	復活!!相双フェローシップ「心のケアセンターおよびアルコールプロジェクトの活動報告」	AA 関係者、一般市民	1	60
県中・県南	郡山市社会福祉協議会生活支援相談員向け研修会	郡山市社会福祉協議会生活 支援相談員	4	52
基幹	福島行政評価事務所研修会	行政評価事務所相談員	4	176
	県北 相馬 県北 相馬 いわき いわき いわき はわき はない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない な	県北 ストレスについて 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み 県北 アルコール家族教室・アルコール家族相談会 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み いわき ストレスと上手に付き合うために"うつ予防" いわき ふくしま心のケアセンター活動内容について いわき いわき市地区における心のケアセンターの活動状況について 基幹 心のケア事業について 県北 熱中症予防、リラクセーション 平成 29 年度市町村社会福祉協議会生活支援相談員等テーマ別研 県中・県南 修会「A氏の現状について」~地域の中で、A氏の強みを活かす支援の一歩~ 基幹 県外避難者の心のケアについて「被災者支援のための視点とヒント」 基幹 復活!!相双フェローシップ「心のケアセンターおよびアルコールプロジェクトの活動報告」 県中・県南 郡山市社会福祉協議会生活支援相談員向け研修会	県北 ストレスについて 学生 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み 三重県立看護大学学生 県北 アルコール家族教室・アルコール家族相談会 アルコール問題のある家族 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み 看護学部学生 いわき ストレスと上手に付き合うために"うつ予防" 配電工事関係者 いわき ふくしま心のケアセンター活動内容について 教養学部 生徒、教員 いわき いわき市地区における心のケアセンターの活動状況について 生活再建支援拠点(相談スタッフ)、復興支援員受託団体(復興支援員) 県北 熱中症予防、リラクセーション 浪江町を含む双葉郡の住民 早成 29 年度市町村社会福祉協議会生活支援相談員等テーマ別研 県内社会福祉協議会生活支援相談員・福島県社会福祉協議会職員 提相談員・福島県社会福祉協議会職員 基幹 県外避難者の心のケアについて「被災者支援のための視点とヒント」 出形県、新潟県) 基幹 県外避難者の心のケアについて「被災者支援のための視点とヒント」 山形県、新潟県) 基幹 復活!!相双フェローシップ「心のケアセンターおよびアルコールプロジェクトの活動報告」 AA 関係者、一般市民 県中・県南 郡山市社会福祉協議会生活支援相談員向け研修会 郡山市社会福祉協議会生活支援相談員	担当 アーマ 対象者 回数 県北 ストレスについて 学生 1 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み 三重県立看護大学学生 1 県北 アルコール家族教室・アルコール家族相談会 アルコール問題のある家族 14 相馬 災害時のメンタルヘルス~福島県相双地区の心のケアの取り組み 看護学部学生 1 いわき ストレスと上手に付き合うために"うつ予防" 配電工事関係者 1 いわき ふくしま心のケアセンター活動内容について 教養学部 生徒、教員 1 いわき いわき市地区における心のケアセンターの活動状況について 教養学部 生徒、教員 1 基幹 心のケア事業について 生活再建支援拠点(相談スタッフ)、復興支援員受託団体(復 男支援員) 1 県北 熱中症予防、リラクセーション 浪江町を含む双葉郡の住民 1 早で成 29 年度市町村社会福祉協議会生活支援相談員等テーマ別研修会「A氏の現状について」〜地域の中で、A氏の強みを活かす支援相談員・福島県社会福祉協議会職員 指島県社会福祉協議会職員 指島県社会福祉協議会職員 1 基幹 県外避難者の心のケアについて「被災者支援のための視点とヒント」 生活支援相談員(福島県 山形県、新潟県) 1 基幹 保護・指列双フェローシップ「心のケアセンターおよびアルコールプロジェクトの活動報告」 AA 関係者、一般市民 1 県中・県南 郡山市社会福祉協議会生活支援相談員向け研修会 郡山市社会福祉協議会生活支援相談員 4

依頼元	担当	ਰ − ₹	対象者	開催回数	受講 者数
富岡町社会福祉協議会	いわき	平成 29 年度生活支援相談員内部研修会「精神疾患の基礎と基本 的な対応」「支援者のためのメンタルヘルスケア」	生活支援相談員	2	62
福島県相双保健福祉事務所	相馬	相談面接の実践〜自己理解と他者理解	福島県地域保健福祉職員新 任研修対象者	1	6
福島県県中保健福祉事務所	県中・県南	平成 29 年度県中管内思春期・青年期ひきこもり家族教室	本人、家族、支援関係者、そ の他関心がある方	4	16
福島県相双保健福祉事務所	いわき	平成 29 年度福島県地域保健福祉職員新任研修のフォローアップ研修会(いわき方部)	平成 29 年度福島県地域保健 福祉職員新任研修に参加した 県及び市町村職員	1	13
郡山市保健所	県中・県南	平成 29 年度 郡山市 思春期・青年期ひきこもり家族等教室	10 代後半から 40 歳代の「ひきこもり」の方を抱えている家族の方	2	13
大熊町	県中・県南	ちびくまランド 大熊町母子保健事業 心理士の講話「子どもの理解と関わり方」	3 歳ぐらいまでのお子さんと保護者	1	15
須賀川市	県中・県南	須賀川市 平成 29 年度ゲートキーパー研修「相談を受けたら。対 応の仕方を学ぼう」	須賀川市 43 ~ 47 歳の職員	2	128
ふくしま連携復興センター	県北	県外避難者支援相談研修	県外避難者支援相談員	1	16
いわき市小川・川前地区保健福 祉センター	いわき	健康講話「笑いと健康」	いわき市川前町五味沢地区住 民	1	12
ふくしま子ども支援センター	県北	子どものためのPFA	関係支援者	1	33
福島県相双保健福祉事務所	県北	CRAFT 勉強会	関係支援者	1	9
福島県社会福祉協議会地域包 括・在宅介護支援センター協議 会 相双支部	いわき	地域包括支援センター職員のストレス解消法及びメンタルヘルスにつ いての講義	相双支部地域包括支援センター	1	19
盛岡ハートネット	相馬	「福島と共に part2」	盛岡ハートネット	1	40
医療法人稲門会いわくら病院	相馬	東日本大震災における心のケア	いわくら病院職員	1	40
ポラリス保健看護学院	相馬	地域精神看護	看護学生	1	41
福島県	基幹	被災者相談ダイヤルにおける県外避難者支援	新潟県内の支援者、行政職 員	1	36
特別養護老人ホーム福寿園	相馬	こころとからだのリラクゼーション	福寿園職員	1	70
しんちの子育て考え隊	相馬	子どもの発達心理、子ども達への対応	新地町児童クラブ関係者	1	14
福島市医師会	県北	ふくしま心のケアセンター活動報告	医師	1	11
広野町包括支援センター	ふたば	広野町包括住民向け講話 『みかんカフェ』 ストレスとの上手な付き合い方	住民	1	10
福島県社会福祉協議会	いわき ふたば	平成 29 年度第4回いわき地区被災者生活支援連絡会議における事 例検討会	県社協、市町村社協職員	1	21
東北大学 高度教養教育・学 生支援機構	ふたば	ふくしま心のケアセンターの事業概要等	学生・講師	1	19
福島県立ふたば未来学園高等学校	ふたば	コミュニケーションについて	学生・教員等	1	7
双葉町社会福祉協議会	いわき	双葉町民生児童委員協議会2月定例会内 認知症研修会	双葉町民生児童委員	1	21
青森いのちのネットワーク	相馬	被災地支援における心のケア	青森いのちのネットワーク	1	12
福島県県中保健福祉事務所	相馬	精神疾患患者の相談等の支援に係る情報交換	福島県県中保健福祉事務所 職員	1	27
南相馬市社会福祉協議会	相馬	地域の見守り・支え合い活動について	地域あったか見守り隊	1	157

学会発表など

開催月日	開催団体名	発 表 テーマ
11月26日	福島県作業療法士会	東日本大震災 忘れないために
2月13日	NPO 法人ジャパンプラットフォーム	福島7年目の現場から~心のケアをつなぐ3つの提案
6月11日	日本トラウマティック・ストレス学会	心のケアセンタースタッフとその疲弊
10月31日	東北精神保健福祉連絡協議会·公益社団 法人宮城県精神保健福祉協会	震災が問うているもの -6 年間を振り返る そして、これから -

集団活動(サロン・健康相談等)

内 容	主催機関	開催 回数	参加 者数
会津我家笑飯めし(楢葉町)	楢葉町	7	53
アルコール家族教室・アルコール家族相談会	福島県県中保健福祉事務所・福島県相双保健 福祉事務所	14	52
飯舘村「お茶飲み会」	飯舘村・飯舘村社会福祉協議会	6	173
いわき市豊間・薄磯地区健康増進事業	いわき市平地区保健福祉センター	9	140
大熊町仮設復興住宅健康相談	大熊町	2	12
大熊町社会福祉協議会主催「つながっペサロン」	大熊町社会福祉協議会	2	18
お茶のみ会:健康相談	飯舘村社会福祉協議会	21	379
男遊クラブ	県中・県南方部センター	12	58
かしまに集まっ会	南相馬市	9	82
借り上げ住宅健康講話	南相馬市	1	27
川内村精神障がい者デイケア	川内村	10	45

内 容	主催機関	開催回数	参加 者数
県南地域で個別支援をしている方への地域交流、生きがい となる活動の支援 陶芸の集い・アートまなべのつどい	県中・県南方部センター	3	13
災害公営住宅サロンへの協力	災害公営住宅自治会	2	38
サロンならは	楢葉町社会福祉協議会	4	104
茶話カフェろここ	郡山市社会福祉協議会	11	179
ホッとサロン「てとて」	福島市社会福祉協議会	12	416
白河市復興公営住宅サロン	白河市社会福祉協議会	5	34
白河地区双葉町社協サロン	双葉町社会福祉協議会	2	34
新地ママサロン	しんちの子育て考え隊	1	7
すくすく相談会	南相馬市	12	327
とみおか元気アップ教室	富岡町さくらスポーツクラブ	6	71
豊間・薄磯・沼ノ内三地区合同夏祭り	いわき市平地区保健福祉センター	1	32
浪江いきいき交流会	浪江町社会福祉協議会、浪江町	8	169
浪江町かもめっ子クラブ	浪江町、NPO 法人ハートフルハート未来を育む 会	11	191
南相馬市震災遺児等支援事業「親子交流旅行」(1泊2日)	南相馬市	1	20
ひきこもり家族教室	福島県県中保健福祉事務所・福島県相双保健 福祉事務所	4	17
ファミリーサポーター養成講座	南相馬市社会福祉協議会	1	7
双葉町栄養サロン	双葉町	10	100
双葉町社会福祉協議会ひだまりサロン	双葉町社会福祉協議会	6	87
南相馬市被災者健康支援事業	南相馬市	10	87
みんぷくサロン	会津みんぷく	5	86

関係機関との会議など

内 容	開催地・会場	開催回数
DPAT運営協議会	グリーンパレス(福島市)	1
会津保健福祉事務所合同ミーティング	福島県会津保健福祉事務所(会津若松市)	10
会津保健福祉事務所との打ち合わせ	福島県会津保健福祉事務所(会津若松市)	2
会津保健福祉事務所・会津若松市社会福祉協議会・心のケアセンター被災者支援 打ち合わせ	福島県会津保健福祉事務所 (会津若松市)	11
会津若松市社協との打ち合わせ	会津方部センター(会津若松市)	1
飯舘村ケースの報告	飯舘村役場 (飯舘村)	1
飯舘村南相馬市地域自立支援協議会	飯舘村ふれ愛館(飯舘村)	1
いわき市ケース報告	いわき市総合保健福祉センター (いわき市) ほか	9
いわき市保健所との打ち合わせ	いわき市保健所、いわき市総合保健福祉センター(いわき市)	2
大熊町いわき市内福祉行政情報交換会	大熊町役場いわき出張所(いわき市)	6
大熊町ケース報告	大熊町役場いわき出張所(いわき市)ほか	13
大熊町月例報告	県中・県南方部センター(郡山市)	1
大熊町社会福祉協議会グループミーティング結果報告	大熊町社会福祉協議会(いわき市)	1
大熊町障がい者支援事業所会議	大熊町役場 (会津若松市)	12
大熊町地域(避難先)ネットワーク会議	大熊町役場 (会津若松市)	10
大熊町との情報共有(こころの健康づくりアンケート結果について)	会津方部センター(会津若松市)	1
大熊町への個支援状況報告	会津方部センター(会津若松市)	4
大熊町保健師との連絡調整	大熊町役場いわき出張所(いわき市)	1
大熊町保健センターとの業務連絡会	会津方部センター(会津若松市)	5
相馬市大野台第6仮設住宅自治会と支援者の定例会	大野台第6仮設住宅集会所(相馬市)	6
小高定例会議	おだかぷらっとほーむ(南相馬市)	3
葛尾村月例報告	葛尾村役場 (葛尾村)	11
川内村いきいき高齢者なり隊ふやし隊会議(川内村高齢者見守りネットワーク)	川内村ゆふね(川内村)	1
川内村月例報告	川内村ゆふね(川内村)	12
川内村との業務打ち合わせ	川内村ゆふね(川内村)	2
県北地域被災者健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所(福島市)	1
県北保健福祉事務所との定例会	福島県県北保健福祉事務所(福島市)	2
県中保健福祉事務所との定例会	県中・県南方部センター(郡山市)	3
県南地域支援調整会議	福島県県南保健福祉事務所(白河市)	1
県南地域浪江町避難者健康支援連絡会	福島県県南保健福祉事務所(白河市)	1
県南保健福祉事務所へのケース報告	福島県県南保健福祉事務所(白河市)	1
県南保福管内の浪江町住民の個別支援の状況報告	福島県県南保健福祉事務所(白河市)	1
県北地区被災者生活支援調整会議	福島市役所渡利支所(福島市) ほか	4
公立相馬総合病院臨床研修管理委員会	公立相馬総合病院 (相馬市)	1
郡山市社会福祉協議会との業務打ち合わせ	県中・県南方部センター (郡山市)	1

部山市一・フスミニティ及母書版	内 容	開催地・会場	開催回数
	自殺予防対策委員会	郡山市中央公民館(郡山市)ほか	7
			2
自身対策シブセジナー			11
##2 の単元の子童を記録する方に含まる。			1
議会分野における歴史の資産業産業を基金会会 「地域の原産・生きなどの情報を受け、このできまない。 「他の地域の関係を受け、このできまなのできない。 「他の地域の関係とは、大きなのできない。 「他の地域のできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きなのできない。 「他の地域のできるに、大きない。 「他の地域のできるに、大きない。 「他の地域のできるに、大きない。 「他の地域のできるに、大きない。 「地域の大きない。 「他の地域のできない。 「地域の大きない。 「地域の大きない。 「他の地域のできない。 「地域の大きない。 「はばれるい。 「はばれるい。 「はばれるいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい			1
精神経過程に以するツーキングリーブ 相容規信等所で、者女変的条名情 相容規信等所で、者女変的条名情 相容規信等所で、さまな的条名情 相容規信を対して、者女変的条名情 相容規信を対して、者女変的条名情 相容規信を対して、者女変的条名情 相容規信を対しているさ出版だとの定例事当からわせ 相互規信を対しているさ出版だとの定例事当からわせ 相互規信を対しているさ出版だとの定例事当からわせ 相互規定を指している方式を対している方式			1
福政政権が開発がいた。考末登現各条合調			1
相対政策が担当を出来を連絡会構	精神保健福祉に関するワーキンググループ	竹田ホール(会津若松市)	2
相双安健福祉 東京小いわら出版所との定領事業打ら合わせ	相双地域等障がい児・者支援関係者会議	福島県いわき合同庁舎(いわき市)	1
超級整備組織 事務所いわき出版所との写像書作与合わせ	 相双地区被災者生活支援連絡会議	原町福祉会館(南相馬市)、はまなす館(相馬市)	3
相談支援電影所運輸会	相双保健福祉事務所いわき出張所との定例事業打ち合わせ	福島県いわき合同庁舎(いわき市)	4
## 15 か 15	相双保健福祉事務所いわき出張所との打ち合わせ	いわき方部センター(いわき市)ほか	4
「日の日本版で、生活等化」 単甲原具合 保存性の反抗火者生活支援開発会議・連絡会議 保存性の反抗火者生活支援開発会議・連絡会議 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 成別市中央極地センター (自河市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会議 (保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 成別市中央極地センター (日河市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会 (保存性)の自然表 (保存性)の自然表 (以わき市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会 (成場市) 日村市・新路町月候報告 田村市・新路町月候報告 田村市の (日村市) 日村市の (日村市) 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	相談支援事業所連絡会	原町学園(南相馬市)	2
「日の日本版で、生活等化」 単甲原具合 保存性の反抗火者生活支援開発会議・連絡会議 保存性の反抗火者生活支援開発会議・連絡会議 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 保存性の反抗火者生活支援開発会議・(保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 成別市中央極地センター (自河市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会議 (保存性区抗炎者生活支援連絡会議) 成別市中央極地センター (日河市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会 (保存性)の自然表 (保存性)の自然表 (以わき市) 公理市分を財政(別者生活支援連絡的路会 (成場市) 日村市・新路町月候報告 田村市・新路町月候報告 田村市の (日村市) 日村市の (日村市) 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	相馬市地域自立支援協議会	はまなす館(相馬市) ほか	7
照中地区後受者生活支援調整会議(限市地区被受者生活支援連絡会議)			17
展帯放佐拠水者に表支援国際を護(展開地区被災者生活支援連絡会議)	会津地区被災者生活支援調整会議・連絡会議	会津若松市文化センター(会津若松市)ほか	4
展帯放佐拠水者に表支援国際を護(展開地区被災者生活支援連絡会議)			4
平成 29 年度いわき地区後災者生活支援連絡調整会議(福島県村協主催)			4
展現から保祖担当者連絡会			2
双葉地方保健担当者連絡会			1
照整者生活支援・相談センター月朝朝告会 総合社会福祉センター(福島市) 1 日刊市 召所(田村市) 1 日刊市 召所(田村市) 1 日刊市 召所(田村市) 1 日刊市 召所(田村市) 1 日前市 召所(田村市) 1 日前市 召所(田村市) 1 日前のアース 相告 1 日前のアース 相告 2 国間のいわき 出版 1 日前の 2 日前の 3 日前の 2 日前の 2 日前の 3 日			2
田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市役所 (田村市) はか 13 富岡町内へ和告 コ同町ケース報告 コ同町がりませま所 (いわき市) はか 15 富岡町内の経路 コロ (日本の本) はか 15 富岡町内の経路 コロ (日本の本) はか 16 名間町 (日本の本) はか 17 名間町 (日本の本) はか 17 名間町 (日本の本) はか 18 高岡町復編を出ま所 (日本の本) はか 18 高岡町復編を出まる議 日本の本) はか 18 名間町復編を提名会議 日本の本) はか 18 名間町産場工を経事所 (日本をお) はか 18 名間町産場工を経事 (日本の本) 保健業町作品主義 (日本の本) 保健業町作品主義 (日本の本) 保健業町 (日本の本) はか 18 名間東町作品主義 (日本の本) 保健業 (いわき市) はか 18 名間東町代場上を力で会議 (根薬町) はか 18 名間東町の塩の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の土の			5
地域交流・異業種交流としての情報交換会 東邦銀行富岡支店・大館支店(富岡町) 10 10 10 10 10 10 10 1			1
			1
富岡町月例報告 富岡町夜場かりを譲 四町夜場かりを変所(いわき市) 12 宮岡町渡場ケア会議 宮岡町夜場かりを変所(いわき市) 12 宮岡町夜場かりを変所(いわき市) 15 3			13
富岡町連携ケア会議 海江町で果った松春務所(二本松市)はか 月辺工町健康工株経療所(二本松市)はか 月辺工町健康工株経療所(二本松市)はか 日赤なみえ保健室(いわき市)はか 日赤なみえ保健室(いわき市)はか 日赤なかえ保健室(いわき市)はか 日赤なかえ保健室(いわき市)はか 日赤なが民機室(いわき市)はか 日赤なが民機室(いわき市)はか 日本町が偏半有会議			12
渡江町ケースの報告			6
渡江町健康支援者会議 相楽町役場上介会議 相楽町役場いちき出張所 (いわき市) ほか 相楽町の一ス報告 相楽町の大き株子会議 相楽町の保護体とかき出張所 (いわき市) ほか 11 格楽町の地域大生ケア会議 相楽町の地域大生ケア会議 相楽町の地域大生ケア会議 相楽町の地域大生ケア会議 相楽町の地域大生ケア会議 相楽町の地域大生の一会津着松市) はか 18 格楽町の土地保険性福祉会館 (横楽町) ほか 18 格楽町の上地保険性福祉会館 (横楽町) ほか 18 格楽町の上地保険性福祉活動へ向けた支援検討会 中町会館 (福島市) かめかうクラブ (相雨市)			5
植葉町ケース報告 横葉町役場いわき出張所(いわき市)ほか 11 情葉町行幅共有会議 横葉町7ルーブホーム(会津美里町)ほか 11 情葉町7地でから議 横葉町7地でがある 11 横葉町7地域共生ケア会議 横葉町7との本務連絡会 横葉町7との本務連絡会 金津方郎センター(金津者松市)ほか 2 横葉町7との本務連絡会 金津方郎センター(金津者松市)ほか 2 横葉町7との表務連絡会 中町会館(福島市) 中町会館(福島市) 中町会館(福島市) 中町会館(福島市) 中町会館(福島市) 中町会館(福島市) 日本のシラクラブ(相馬市) 日本のシラクラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラグラ			12
档葉町付報共有会議			18
楢葉町19域共生ケア会議		The second secon	_
横葉町打ち合わせ 横葉町役場いわき出張所(いわき市) 2 名			18
横葉町との業務連絡会			2
被災者支援から地域保健福祉活動へ向けた支援検討会 中司会館(福島市) ゆうゆうクラブ(相馬市)			4
陸がい児支援関係者地域ミーティング			1
広野町との打ち合わせ			4
広野町との打ち合わせ			7
広野町地域ケア推進会議 広野町包括支援センターとの打ち合わせ 広野町包括支援センターとの打ち合わせ 福島県青少年支援協議会相双地域連絡会議 福島県相談交援専門職チーム県北定份会議 平成29年度福島県相談支援専門職チーム会津調整会議 双葉町と会福祉協議会グループミーディング打ち合わせ 双葉町と名和社協議会の打ち合わせ 双葉町と名和社協議会の打ち合わせ 双葉町と名和社協議会の打ち合わせ 双葉町と名和社協議会の割けたます。 では、29年度福島県相談大変推進協議会 平成・29年度権利の保健福祉事務所(内わき市) の業町は会福祉協議会の郡山市) 双葉町は会福祉協議会の郡山市) の業町は会福祉協議会の郡山市) の業町には、18時間には、18			1
広野町包括支援センターとの打ち合わせ 広野町役場(広野町) 福島県市少年支援協議会相双地域連絡会議 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市) 第島県相談支援専門職チーム県北定例会議 福島県相双保健福祉センター(福島市)ほか 第東町社会福祉協議会グループミーティング打ち合わせ 福島県相双保健福祉事務所(いわき市) 双葉町から打ち合わせ 双葉町から書務所(いわき市) 2 双葉町から打ち合わせ 双葉町がき事務所(いわき市) 2 双葉町がたる福祉協議会(の打ち合わせ 双葉町がたる福祉協議会(郡山市) 2 双葉町がたる福祉協議会(の打ち合わせ 2 双葉町がたる福祉協議会(郡山市) 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3			3
福島県青少年支援協議会相双地域連絡会議 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市)			1
福島県相談支援専門職チーム県北定例会議 福島市保健福祉センター(福島市)ほか 会			1
平成 29 年度福島県相談支援専門職チーム会津調整会議			9
双葉町社会福祉協議会グループミーティング打ち合わせ			5
双葉町との打ち合わせ 双葉町いわき事務所(いわき市) 12 双葉町社会福祉協議会との打ち合わせ 双葉町社会福祉協議会(郡山市) 12 双葉町保健福祉実務者連絡会 双葉町社会福祉協議会(郡山市)、双葉町いわき事務所(いわき市) 18 平成 29 年度相双地域自殺対策推進協議会 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市) 2 平成 29 年度第 1 回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 2 平成 29 年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 2 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) 2 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) 3 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市) 3 南相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 1 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター(南相馬市) 2 みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 2 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市) 2	双葉町社会福祉協議会グループミーティング打ち合わせ	福島県相双保健福祉事務所いわき出張所(いわき市)	1
双葉町ケース報告 双葉町いわき事務所 (いわき市) 12 双葉町社会福祉協議会との打ち合わせ 双葉町社会福祉協議会(郡山市) 18 平成29年度相双地域自殺対策推進協議会 福島県相双保健福祉事務所 (南相馬市) 18 平成29年度第1回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 2 平成29年度第2回精神保健福祉業務懇談会 矢吹病院 (矢吹町) 2 平成29年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 2 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁 (福島市) 3 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁 (福島市) 3 前相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所 (南相馬市) 3 南相馬市接順主要接近 原町保健センター (南相馬市) 3 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター (南相馬市) 3 みんぷく支援者会議 いわき市文化センター (いわき市)ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター (会津若松市)ほか 2 平成29年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎 (福島市) 3			1
双葉町社会福祉協議会との打ち合わせ 双葉町社会福祉協議会(郡山市)、双葉町いわき事務所(いわき市) 双葉町保健福祉実務者連絡会 双葉町社会福祉協議会(郡山市)、双葉町いわき事務所(いわき市) 平成29年度相双地域自殺対策推進協議会 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市) 平成29年度第1回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 平成29年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁(福島市) 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 イ島県庁(福島市) 第島県庁(福島市) が射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市) 南相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 南相馬市後が、省健康支援連絡会 原町保健センター(南相馬市) 京町保健センター(南相馬市) この町保健センター(南相馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 平成29年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			12
双葉町保健福祉実務者連絡会 双葉町保健福祉事務所(向相馬市) 18 平成29年度相双地域自殺対策推進協議会 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市) 2 平成29年度第1回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 2 平成29年度第2回精神保健福祉業務懇談会 矢吹病院(矢吹町) 2 平成29年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 2 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) 3 平成29年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) 3 前相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 1 南相馬市被災者健康支援連絡会 原町保健センター(南相馬市)ほか 3 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター(向相馬市) 3 みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 2 平成29年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市) 3			1
平成 29 年度相双地域自殺対策推進協議会 福島県相双保健福祉事務所(南相馬市) 平成 29 年度第 1 回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 平成 29 年度第 2 回精神保健福祉業務懇談会 矢吹病院(矢吹町) 平成 29 年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁(福島市) 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) (協島市) が射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市) 南相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 南相馬市接(計画策定委員会) 原町保健センター(南相馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			18
平成 29 年度第 1 回福島県被災者生活支援調整会議 福島県青少年会館(福島市)ほか 平成 29 年度第 2 回精神保健福祉業務懇談会 矢吹病院(矢吹町) 平成 29 年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま(福島市)ほか 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁(福島市) 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) (協島市) 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市) 南相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 南相馬市接(計画策定委員会) 原町保健センター(南相馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			1
平成 29 年度第 2 回精神保健福祉業務懇談会 矢吹病院 (矢吹町) 平成 29 年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま (福島市) ほか 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁 (福島市) 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁 (福島市) 3 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター (いわき市) 南相馬市・飯館村地域自立支援協議会 南相馬市役所 (南相馬市) 1 南相馬市接近者健康支援連絡会 原町保健センター (南相馬市) 3 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター (南相馬市) 3 みんぷく支援者会議 いわき市文化センター (いわき市) ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター (会津若松市) ほか 2 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎 (福島市) 1			2
平成 29 年度福島県県外避難者心のケア事業連携推進会議 コラッセふくしま (福島市) ほか 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁 (福島市) 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター (いわき市) 南相馬市・飯舘村地域自立支援協議会 南相馬市役所 (南相馬市) 南相馬市後災者健康支援連絡会 原町保健センター (南相馬市) ほか 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター (内も馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター (いわき市) ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター (会津若松市) ほか 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎 (福島市)			1
平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 福島県庁(福島市) 平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会 福島県庁(福島市) 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市) 南相馬市・飯舘村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 17 南相馬市接渡主路会 原町保健センター(南相馬市) 3 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター(南相馬市) 3 みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 2 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市) 1			2
平成 29 年度福島県自殺対策推進協議会 アルコール健康障害対策推進部会			2
放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター職員との打ち合わせ いわき方部センター(いわき市)			3
南相馬市・飯舘村地域自立支援協議会 南相馬市役所(南相馬市) 南相馬市被災者健康支援連絡会 原町保健センター(南相馬市)ほか 南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター(南相馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			1
南相馬市被災者健康支援連絡会 原町保健センター(南相馬市)ほか (17
南相馬市保健計画策定委員会 原町保健センター(南相馬市) みんぷく支援者会議 いわき市文化センター(いわき市)ほか みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター(会津若松市)ほか 平成29年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			3
みんぷく支援者会議 いわき市文化センター (いわき市) ほか 2 みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター (会津若松市) ほか 2 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎 (福島市) 3			1
みんぷくとの業務連絡会 会津方部センター (会津若松市) ほか 2 平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎 (福島市)			2
平成 29 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会 福島県保健衛生合同庁舎(福島市)			2
			1
	平成 29 年度保健事業担当者会議	福島県いわき合同庁舎(いわき市)	2

【編集後記】

ふくしま心のケアセンター活動記録誌2017(平成29)年度第6号を無事に 刊行することができました。

原稿を執筆していただいた皆様、そして編集に携わっていただきました委 員の皆様に深く感謝申しあげます。

2018年は災害の多い年でした。それも何十年に一度とか、今までに経験を したことがないものが立て続けに全国で発生し、人的、物的に多くの被害を もたらしました。

「災害は忘れたころにやってくる」と言われていましたが、その言葉は通用 しなくなってきています。

災害にあたってはその予防が重要となりますが、一旦災害に面したときの 初動対応は被害の拡大を防ぐ大きな要因となります。そして、助かった命を つなぐ手立てともなります。

直接の体験からくる備えは大変有効となることは言うまでもありません。 この活動記録誌は単にふくしま心のケアセンターの活動を記録したもの ではないと思っております。今後起こりうる(起こらないことを願っていま す。)大災害への対応にあたっての大いに参考となる貴重な資料であるとの 意識でこれからも刊行してまいる所存です。

活動記録誌編集委員会副委員長 仲沼安夫

ふくしま心のケアセンター活動記録誌 2017(平成29)年度 第6号

表紙写真:花見山公園(畑哲信:福島県精神保健福祉センター所長)

発 行 日:2019(平成31)年3月15日

編集発行:一般社団法人 福島県精神保健福祉協会

ふくしま心のケアセンター

Fukushima Center for Disaster Mental Health

〒960-8012 福島市御山町8-30 県保健衛生合同庁舎5階

TEL (024)535-8639 FAX (024)534-9917

被災者相談ダイヤル(ふくここライン) (024)925-8322

http://kokoro-fukushima.org/

印刷 所:株式会社第一印刷